

令和5年度文部科学省
大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の
「職」の魅力向上・発信事業
(幼児教育の「職」魅力発信・向上事業)

成果報告書

令和6年3月
TOPPAN 株式会社

目次

1章 事業概要

- 1.1 本事業の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 1.2 事業の概要
 - 1.2.1 教育に集中できる環境整備に関する調査研究・・・・・・・・・・ 5
 - 1.2.2 「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業・・・・・・・・ 5
 - 1.2.3 有識者検討会の設置・会議の運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

2章 教育に集中できる環境整備に関する調査研究

- 2.1 調査研究概要
 - 2.1.1 背景と目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - 2.1.2 調査研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 2.2 アンケート調査
 - 2.2.1 アンケート調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - 2.2.2 基礎集計結果・分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
 - 2.2.3 クロス集計結果・分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
- 2.3 インタビュー調査
 - 2.3.1 インタビュー調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
 - 2.3.2 インタビュー調査実施までの選定フロー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
 - 2.3.3 インタビュー調査の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
 - 2.3.4 パンフレット化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 85
- 2.4 第2章のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86

3章 「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業

3.1	大学の選定と伴走支援への取り組み	
3.1.1	公募の実施	87
3.1.2	採択された8大学の一覧	87
3.1.3	伴走支援の実施	87
3.2	成果の取りまとめ	
3.2.1	札幌国際大学短期大学部	
3.2.1.1	中間報告	91
3.2.1.2	最終報告	95
3.2.2	千葉大学	
3.2.2.1	中間報告	103
3.2.2.2	最終報告	108
3.2.3	國學院大學	
3.2.3.1	中間報告	116
3.2.3.2	最終報告	120
3.2.4	東京家政学院大学	
3.2.4.1	中間報告	139
3.2.4.2	最終報告	147
3.2.5	大阪青山大学	
3.2.5.1	中間報告	158
3.2.5.2	最終報告	164
3.2.6	大阪キリスト教学院	
3.2.6.1	中間報告	176
3.2.6.2	最終報告	178
3.2.7	奈良教育大学	
3.2.7.1	中間報告	185
3.2.7.2	最終報告	193
3.2.8	鳴門教育大学	
3.2.8.1	中間報告	203

3.2.8.2 最終報告	216
3.2.9 取り組みパンフレットの作成	220
3.2 成果の取りまとめ	220

4章 総括

4.1 本事業のまとめ	222
-------------	-----

1章 事業概要

1.1 本事業の目的

幼児期及び幼保小接続期の教育の質的向上の根幹をなす幼稚園教諭等の人材については、養成校生の多くが他業種へ就職する、平均勤続年数が短い、離職者の再就職が少ない等、人材の需要の高止まりに供給が追いついていない状況がある。このような現状に対応するには、より多くの人材が幼児教育の道を志し、継続的に働き続けられる職場環境の中で体系的に資質能力の向上を図る機会を確保することが求められる。また、一度現場を離れた幼稚園教諭免許保有者が円滑に復職できるよう、総合的なキャリア形成支援のための調査研究を実施する必要がある。

このような背景を踏まえ「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の職」の魅力向上・発信事業（幼児教育の「職」魅力発信・向上事業）では、教育に集中できる環境整備に関する調査研究（以下、勤務環境調査）及び、「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業（以下、モデル創出事業）を実施するとともに、それぞれの成果を取りまとめたパンフレットの作成を行った。各事業の概要については、次項にて記載する。

1.2 事業の概要

1.2.1 教育に集中できる環境整備に関する調査研究

幼児教育の「職」の魅力向上のため、幼稚園教諭等が教育活動に集中できるための勤務実態及び勤務環境改善の取り組みに関するアンケート調査を実施した。また、アンケートの結果から全国の幼稚園等の参考に資する取り組みについては、幼稚園等の担当者に対してインタビュー調査を実施し、別紙1「幼稚園・認定こども園における勤務改善事例集」として取りまとめた。

1.2.2 「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業

幼児教育を担う人材を輩出する大学等が拠点となり、養成校入学前からの幼児教育の現場の魅力発信、学生・卒業生のキャリア支援や、離職者等が現場に復帰するための支援等を行うモデルを創出し、効果的なキャリア支援の在り方や、幼児教育の魅力発信のアプローチ方法を検討する実証事業（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）を実施した。また、各大学等において特に他の大学へ横展開すべきと考えられた取り組みについては、別紙2「中高生向けの魅力発信」「養成校生・教諭等のキャリア形成支援」の取り組みパンフレット」として取りまとめた。

1.2.3 有識者検討会の設置・会議の運営

(1) 有識者検討会の設置の目的

事業の実施に当たっては、勤務環境調査の進め方や内容について専門的な協議を行い、アンケート調査の項目や結果の取りまとめについて助言をいただくこと。また、モデル創出事業の実施大学等の選定及び事業実施に対する助言をいただくことを目的に有識者検討会を設置した。

(2) 有識者検討会委員

有識者検討会には、文部科学省との協議の上、委員には幼稚園教育や教員の働き方改革の専門的な知見を有する学識者、幼児教育関係者、民間団体・企業等の有識者ら5名を選定した。

表 1-1 有識者検討会委員（敬称略、五十音順）

内田 千春 (主査)	東洋大学 福祉社会デザイン学部 子供支援学科 教授
大澤 洋美	東京成徳短期大学 幼児教育科 教授
澤田 真由美	株式会社先生の幸せ研究所 代表取締役
森島 弘道	学校法人森島学園 理事長
保田 宏	横浜市立中田小学校・戸塚小学校 初任者指導

(3) 有識者検討会の実施

事業を通じて、計3回の有識者検討会を開催した。また、モデル事業の中間報告会・最終報告会にも出席いただいた。各会議の要領は以下の通り。

表 1-2 有識者検討会及びモデル事業報告会実施概要

第一回 日時	令和5年6月16日10時～11時30分
形式	オンライン (Zoom)
議題	(1) 開会 (2) 本事業の概要/委員の紹介 (3) 応募大学の審査 (4) 教育に集中できる環境整備に関する調査研究について (5) その他連絡事項 (6) 閉会

第二回 日時	令和5年11月9日10時45分～11時30分
形式	オンライン (Zoom)
議題	(1) 開会 (2) 中間報告会の意見交換

	(3) 教育に集中できる環境整備に関する調査研究について (4) その他連絡事項 (5) 閉会
--	---

第三回 日時	令和6年2月13日14時45分～15時30分
形式	オンライン (Zoom)
議題	(1) 開会 (2) 教育に集中できる環境整備に関する調査研究について (3) 園務環境改善パンフレットについて (4) 本事業全体の振り返り (5) その他連絡事項 (6) 閉会

中間 報告会 日時	令和5年11月9日9時00分～10時40分
形式	オンライン (Zoom)
議題	(1) 開会・ご挨拶 (2) 各大学からの中間報告 (3) 閉会・ご挨拶 (4) 事務局からのお知らせ

最終 報告会 日時	令和6年2月13日13時00分～14時40分
形式	オンライン (Zoom)
	(1) 開会・ご挨拶 (2) 各大学からの最終報告 (3) 閉会・ご挨拶 (4) 事務局からのお知らせ

2章 教育に集中できる環境整備に関する調査研究

2.1 調査研究概要

2.1.1 背景と目的

幼児期及び幼保小接続期の教育の質的向上の根幹をなす幼児教諭等の人材については、少子高齢社会による労働人口の減少と養成校生の多くが他業種へ就職する、平均勤続年数が短い、離職者の再就職が少ない等、人材の需要の高止まりに供給が追いついていない状況がある。加えて、幼児を取り巻く様々な環境の変化、家庭・地域社会の教育力の低下が危惧されており、今後は家庭・地域社会・幼稚園等が総合的に幼児教育を提供することが必要とされ、その成果を小学校に引き継ぐために、幼稚園教育の充実は今後ますます重要度が大きくなる。

このような現状に対応するには、幼稚園等での教諭の勤務環境の実態を把握し、対応策を検討することが必要不可欠である。そこで本調査では、幼児教育の「職」の魅力向上のため、幼稚園教諭等が教育活動に集中できるための勤務実態アンケート調査並びにインタビュー調査を実施し、幼稚園等の勤務環境の実態を明らかにする。加えて、全国の幼稚園等に園の形態に関係なく取り組むことが可能な園務改善に資する効率的・効果的な取り組みを明らかにすることを目的とする。また、その取り組みを取りまとめ、現場の教職員にとってわかりやすく、自身の働く幼稚園等で容易に取り組む実践できるような体系化されたパンフレットを作成する。

2.1.2 調査研究内容

本調査研究を遂行するにあたり、以下の通りの調査と分析、検討を実施した。

(1) 全国の幼稚園等の教職員を対象としたアンケート調査

幼稚園教諭等に全国規模でのアンケート調査を実施した。その際、紙面での調査ではなく、オンラインを活用し、調査協力者に過度な負担がかからないように留意した。アンケート調査の主な項目については回答者個人と所属する園等のデモグラフィック情報、園務の実態、園の取り組み、インタビュー応諾の4項目を設定した。

アンケート調査結果の分析に当たっては、地域の特性及び規模等の事情を踏まえたものにするとともに、幼稚園教諭等の園務の負担感の要因及び必要な勤務環境改善のための取り組みを明らかにした。また、定量的な分析を行い、因果関係等についても考察を行った。

(2) (1) のアンケート調査をもとに抽出した幼稚園等を対象としたインタビュー調査

(1)のアンケート調査の園の取り組みの設問における自由記述の回答データをもとにパンフレット記載する可能性のある事例及び園の所在地、設置主体、施設類型、規模に偏り

のないよう留意し、抽出した。抽出したインタビュー候補園に対して、一度架電にてヒアリングを行い、改めて回答内容の確認を実施した。架電ヒアリング後、改めて園の形態に関係なく取り組むことが可能な取り組み事例かどうか判断をしたうえでインタビュー実施園を確定しオンラインインタビューを行い、取り組みの深掘りを試みた。オンラインインタビューでは取り組みを実施した責任者と現場の担当者を対象に実施し、インタビュー結果をパンフレットに取りまとめた。

(3) 有識者検討会会議の設置・運営並びに本調査研究有識者主査との協議

専門的観点から助言をいただくため、前述の 1.2.3 に記載した通り、学識者や現場経験者からなる有識者検討会を設置、運営した。加えて、本調査研究の有識者検討会主査である東洋大学 内田 千春氏にご協力いただき調査・分析方針の検討を行った。

2.2 アンケート調査

2.2.1 アンケート調査の概要

(1) 調査目的

幼児教育の「職」の魅力向上を実現するためには、現状の教職員の考え方や所属園の勤務環境の把握が重要である。そのため、全国の幼稚園等に勤務する教職員を対象に所属園での勤務状況や具体的な勤務環境改善の取り組み内容等についてアンケート調査を実施し、勤務環境の実態を明らかにする。

(2) 調査対象

本調査は、全国に所在する国公立幼稚園、国公立幼稚園型認定こども園、国公立幼保連携型認定こども園、国公立保育所型認定こども園、国公立地方裁量型認定こども園、私立幼稚園、私立幼稚園型認定こども園、私立幼保連携型認定こども園、私立保育所型認定こども園、私立地方裁量型認定こども園のいずれか 10 園に所属する教職員に対して実施した。

(3) 調査方法

本調査は電子メールにて図 2-1 に示す実施概要を文部科学省から各自治体に展開し、実施概要に記載された所定の URL および二次元バーコードからアンケートフォームへ遷移しアンケートに回答いただいた。

幼稚園教諭・保育教諭の皆様

文部科学省 令和5年度委託事業
大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業
(幼児教育の「職」の魅力発信・向上事業)
幼稚園等における勤務環境等に関する調査への協力のご依頼

時下、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

弊社（凸版印刷株式会社）では、文部科学省の委託事業「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（幼児教育の「職」の魅力発信・向上事業）」において、全国の幼稚園と認定こども園で働く皆様の勤務実態と園での取り組みに関するアンケート調査を実施いたします。回答いただいたアンケート結果をもとに、幼稚園の「職」の魅力を発信するため、働き方、働く環境に関する効果的な取組事例をまとめたパンフレット等を作成します。お忙しいところ恐縮ではございますが、本調査等の趣旨をご理解いただき、本アンケートにご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

またアンケート収集後、ご協力をいただけると回答いただいた園におかれては、貴園における勤務環境改善に資する取り組み等について、後日オンラインもしくは必要に応じて対面でのインタビューを実施させていただく可能性もございます。

実施の際には是非ともご協力を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

■回答方法

アンケート調査のご回答に当たっては、下記に記載している QRコード や URL からアンケートサイトへアクセスいただき、ご回答をお願いいたします。

【回答 QR コード】



【回答 URL】

<https://t1.post-survey.com/C005002181>

多忙な中大変恐縮ですが、10月6日（金）までにご回答いただけますと幸甚でございます。

敬具

<本案件お問い合わせ先>

凸版印刷株式会社 大キャリア事務局
〒112-8531 東京都文京区水道 1-3-3
✉ daikyari_jimukyoku@toppan.co.jp

<実施主体>

文部科学省 初等中等教育局 幼児教育課
〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2

図 2-1 調査実施概要

(4) 調査期間

本調査は、令和5年9月6日配布、令和5年10月17日を回答期限として回収を実施した。また、図2-1では令和5年10月6日を回答期限と記載されているが、文部科学省同意の上、回答期限を令和5年10月17日までに延長した。

(5) 調査内容

本調査におけるアンケート調査票の設問及び選択肢を表2-1に示す。

表2-1 設問項目一覧

質問番号	質問項目	回答形式	選択肢番号	質問文・選択肢
【属性情報】				
F1	性別	SA (単一回答)		あなたの性別を教えてください。
			1	男性
			2	女性
			3	その他()
F2	年齢	NA(数値)		あなたの年齢を教えてください。
				数値プルダウン
				※18歳～99歳まで
F3	配偶者の有無	SA (単一回答)		あなたには配偶者がいますか。
			1	いる
			2	いない
F4	子供の有無	SA (単一回答)		あなたにはお子様がいますか。
			1	いる
			2	いない
F5	最終学歴	SA (単一回答)		あなたの最終学歴を教えてください。
			1	短期大学
			2	高等専門学校
			3	専門学校
			4	大学学部
			5	大学院修士課程・博士前期課程、専門職大学院(教職大学院)
			6	大学院博士後期課程
F6	園名	FA (自由回答)		あなたがお勤めの園名を教えてください。

F7	幼稚園分類	SA (単一回答)		あなたがお勤めの園にあてはまるものを選択してください。
			1	【国公立】幼稚園
			2	【国公立】幼稚園型認定こども園
			3	【国公立】幼保連携型認定こども園
			4	【国公立】保育所型認定こども園
			5	【国公立】地方裁量型認定こども園
			6	【私立】幼稚園
			7	【私立】幼稚園型認定こども園
			8	【私立】幼保連携型認定こども園
			9	【私立】保育所型認定こども園
			10	【私立】地方裁量型認定こども園
F8	地域	SA (単一回答)		あなたがお勤めの園の郵便番号を教えてください。 ※半角数字で7ケタすべて教えてください。
F9	規模（在籍児数）	SA(単一回答)		あなたがお勤めの園の在籍児数は何名ですか。 3歳未満の在籍児数と3歳以上の在籍児数について、それぞれあてはまるものを選択してください。 ※「2023年4月2日時点」での在籍児童数について選択してください。
			a	3歳未満の在籍児数
			b	3歳以上の在籍児数
			1	60名以下
			2	61名～120名以下
			3	121名～180名以下
			4	181名～240名以下
			5	241名以上
F10	規模（教諭・保育士数）	SA(単一回答)		あなた自身を含め、園で通常勤務しているすべての幼稚園教諭・保育教諭（常勤・非常勤を含む）は何名ですか。 最も近いものを1つだけ選択してください。
			1	～5名程度
			2	6名～10名程度
			3	11名～15名程度
			4	16名～20名程度
			5	21名～25名程度
			6	26名～30名程度
			7	31名以上

F11	役職有無	SA (単一回答)		あなたの現在お勤めの園での「職」を以下の中から選択してください。
			1	園長
			2	副園長
			3	教頭
			4	主幹教諭・指導教諭・主幹保育教諭・指導保育教諭・主任保育士
			5	教諭・保育教諭・保育士
			6	助教諭・助保育教諭
			7	養護教諭・栄養教諭
			8	講師
			9	その他 ()
F12	担任の有無	SA (単一回答)		あなたは、現在お勤めの園で「担任」を受け持っていますか。
			1	担任を受け持っている
			2	担任を受け持っていない
F13	通算キャリア年数	NA (数値)		あなたの幼稚園教諭・保育教諭としての通算勤務年数を教えてください。 ※現在の園での勤務を含め、これまでの教諭・保育士として勤務した年数でお答えください。
				(〇〇) 年
F14	転園経験	SA (単一回答)		あなたはこれまでに転園の経験がありますか。
			1	転園経験がある
			2	転園経験はない
F15	教諭・保育士以外の経歴	SA(単一回答)		あなたは幼稚園教諭・保育教諭になる前に、別の仕事に就いていたことはありますか。 ※別の仕事の雇用形態は問いません。
			1	別の仕事に就いた後、幼稚園教諭・保育教諭に転職した
			2	別の仕事に就いていたことはない
F16	復職経験	SA(単一回答)		あなたは、結婚・出産等を機に一度退職し、幼稚園教諭・保育教諭に「職場復帰」した経験はありますか。
			1	ある
			2	ない
【やりがいを感じる業務について】				
Q1	やりがい	SA マトリクス		あなたは以下の各業務について「やりがい」をどの程度感じますか。

				感じ方に近いものをそれぞれ1つずつ選択してください。
			a	やりがいを感じる
			b	どちらかといえばやりがいを感じる
			c	どちらかといえばやりがいを感じない
			d	やりがいを感じない
			e	この業務を担当していない
			1	教育活動（遊びの時間含む）
			2	教室・園庭の整理整頓、点検及び清掃業務
			3	送迎バスへの添乗業務
			4	昼食
			5	保護者対応
			6	年間教育計画・指導案の作成
			7	連絡帳・園だより・クラスだよりの作成・記入
			8	行事の企画運営
			9	壁面製作
			10	備品の管理・設備点検
			11	預かり保育
			12	研修
【重要と感じる業務について】				
Q2	重要度	SA マトリクス		あなたは以下の各業務について「重要度」をどの程度感じますか。感じ方に近いものをそれぞれ1つずつ選択してください。
			a	重要だと感じる
			b	どちらかといえば重要だと感じる
			c	どちらかといえば重要だと感じない
			d	重要だと感じない
			e	この業務を担当していない
			1	教育活動（遊びの時間含む）
			2	教室・園庭の整理整頓、点検及び清掃業務
			3	送迎バスへの添乗業務
			4	昼食
			5	保護者対応
			6	年間教育計画・指導案の作成
			7	連絡帳・園だより・クラスだよりの作成・記入
			8	行事の企画運営

			9	壁面製作
			10	備品の管理・設備点検
			11	預かり保育
			12	研修
【時間的な負担業務について】				
Q3	時間的負担	SA マトリクス		あなたが本来担当している業務を行うに当たり、以下の各業務について「時間的な負担感（時間を取られていると感じることによる負担感）」をどの程度感じますか。感じ方に近いものをそれぞれ1つずつ選択してください。
			a	負担を感じる
			b	どちらかといえば負担を感じる
			c	どちらかといえば負担に感じない
			d	負担に感じない
			e	この業務を担当していない
			1	教室・園庭の整理整頓、点検及び清掃業務
			2	送迎バスへの添乗業務
			3	昼食
			4	保護者対応
			5	年間教育計画・指導案の作成
			6	連絡帳・園だより・クラスだよりの作成・記入
			7	行事の企画運営
			8	壁面製作
			9	備品の管理・設備点検
			10	預かり保育
			11	研修
【精神的な負担業務について】				
Q4	精神的負担	SA マトリクス		あなたは以下の各業務について「精神的な負担感」をどの程度感じますか。感じ方に近いものをそれぞれ1つずつ選択してください。
			a	負担を感じる
			b	どちらかといえば負担を感じる
			c	どちらかといえば負担に感じない
			d	負担に感じない
			e	この業務を担当していない

			1	教育活動（遊びの時間含む）
			2	教室・園庭の整理整頓、点検及び清掃業務
			3	送迎バスへの添乗業務
			4	昼食
			5	保護者対応
			6	年間教育計画・指導案の作成
			7	連絡帳・園だより・クラスだよりの作成・記入
			8	行事の企画運営
			9	壁面製作
			10	備品の管理・設備点検
			11	預かり保育
			12	研修
【勤務時間】				
Q5-1	勤務状況	その他		あなたの園での勤務時間について、以下の2点について教えてください。 1. よくある平均的な【出勤時刻】 2. よくある平均的な【退勤時刻】 ※時刻は24時間表記でご回答ください。
			1	よくある平均的な【出勤時刻】 ⇒●●時●●分 ※分は10分刻み
			2	よくある平均的な【退勤時刻】 ⇒●●時●●分 ※分は10分刻み
Q5-2	勤務状況	その他		あなたの園での1日当たりの休憩時間について教えてください。 よくある1日の平均的な【休憩時間】
			1	よくある1日の平均的な【休憩時間】 ⇒●●時間●●分 ※分は10分刻み
【各業務に係る時間】				

Q5-3	勤務状況	SA マトリクス	<p>あなたの園での【毎日の業務】として行っているものについて教えてください。</p> <p>あなたは、園での【毎日の業務】として、以下それぞれの業務に「1日当たり平均して」、どの程度の時間をかけていますか。 【10分単位】でおおよその時間で構いませんので教えてください。</p> <p>※時間をかけていない、関わっていない業務につきましては「00」分とご回答ください。 ※以下にあげる業務以外で、【毎日の業務】として行っているものがあれば、業務内容を問わず「その他（上記以外で【毎日の業務】として行っているもの）」の選択肢欄に合計の時間をご回答ください。</p>
			1 教育活動（遊びの時間含む）：（10分刻み、最大 480 分のプルダウン）分
			2 教室・園庭の整理整頓、点検及び清掃業務：（10分刻み、最大 480 分のプルダウン）分
			3 送迎バスへの添乗業務：（10分刻み、最大 480 分のプルダウン）分
			4 昼食：（10分刻み、最大 480 分のプルダウン）分
			5 園全体での連絡や打ち合わせ：（10分刻み、最大 480 分のプルダウン）分
			6 教員間での連絡や打ち合わせ：（10分刻み、最大 480 分のプルダウン）分
			7 連絡帳・園だより・クラスだよりの作成・記入：（10分刻み、最大 480 分のプルダウン）分
			8 日々の学習準備：（10分刻み、最大 480 分のプルダウン）分
			9 預かり保育：（10分刻み、最大 480 分のプルダウン）分
			10 事務作業：（10分刻み、最大 480 分のプルダウン）分
			11 その他（上記以外で【毎日の業務】として行っているもの）：（10分刻

				み、最大 480 分のプルダウン) 分
				合計：○時間 ●●分 ※合計数値のみ表示となり前問 Q5-1 の回答時間との整合性は不問
Q5-4 回答対象：全 員	勤務状況	SA マトリク ス		<p>あなたの園での【毎日ではない業務】として行っているものについて教えてください。</p> <p>あなたは、園での【毎日ではない業務】として、以下それぞれの業務に「月間合計して」、どの程度の時間をかけていますか。 ※時間単位と 10 分単位でおおよその時間で構いませんので教えてください。 ※時間をかけていない、関わっていない業務につきましては「00」分とご回答ください。 ※以下にあげる業務以外で、【毎日ではない業務】として行っているものがあれば、業務内容を問わず「その他（上記以外で【毎日ではない業務】として行っているもの）」の選択肢欄に合計の時間をご回答ください。</p>
			1	行事の企画運営：●●（最大 100）時間●●（10 分刻みプルダウン）分
			2	年間教育計画・指導案の作成：●●（最大 100）時間●●（10 分刻みプルダウン）分
			3	壁面製作：●●（最大 100）時間●●（10 分刻みプルダウン）分
			4	研修：●●（最大 100）時間●●（10 分刻みプルダウン）分
			5	保護者会：●●（最大 100）時間●●（10 分刻みプルダウン）分
			6	保護者個人面談：●●（最大 100）時間●●（10 分刻みプルダウン）分
			7	備品の管理・設備点検：●●（最大 100）時間●●（10 分刻みプルダウン）分
			8	その他（上記以外で【毎日ではない業務】として行っているもの）：●●（最大 100）時間●●（10 分刻みプルダウン）分

				合計：●●時間 ●●分
【ストレスについて】				
Q6-1 回答対象： F11=1. 2. 3. 4	ストレス度	SA マトリクス		あなたが現在お勤めの園での業務を行う上で、以下に挙げることに對しての「ストレスの感じ方」は、どの程度ですか。 感じ方に近いものをそれぞれ1つずつ選択してください。
			a	ストレスを感じる
			b	ややストレスを感じる
			c	あまりストレスを感じない
			d	ストレスを感じない
			1	事務的な業務が多すぎる
			2	仕事の裁量権・役割の重さ
			3	職場の雰囲気
			4	職場の人間関係
			5	幼稚園教諭・保育教諭が不足していること
			6	子供の育ちや学び、生活の充実に責任を負っていること
			7	現在の勤務形態
			8	今後の幼稚園教諭・保育教諭の将来性・見通し
			9	園の教育・保育方針
			10	業務を行う上での精神面・健康面への不安
			11	仕事外のご自身の家庭・家族との関係
			12	自分が思う保育や指導ができない
			13	自分の意見が通りにくい
			14	業務について自分自身で学ぶ時間が確保できない
			15	部下に対するマネジメント（方針を理解してくれない等）
			16	保育者の社会的評価の低さ
			17	給与・待遇
			18	福利厚生の内容
Q6-2 回答対象： F11=5. 6. 7. 8. 9	ストレス度	SA マトリクス		あなたが現在お勤めの園での業務を行う上で、以下に挙げることに對しての「ストレスの感じ方」は、どの程度ですか。 感じ方に近いものをそれぞれ1つずつ選択してください。

			a	ストレスを感じる
			b	ややストレスを感じる
			c	あまりストレスを感じない
			d	ストレスを感じない
			1	事務的な業務が多すぎる
			2	仕事の裁量権・役割の重さ
			3	職場の雰囲気
			4	職場の人間関係
			5	幼稚園教諭・保育教諭が不足していること
			6	子供の育ちや学び、生活の充実に責任を負っていること
			7	現在の勤務形態
			8	今後の幼稚園教諭・保育教諭の将来性・見通し
			9	園の教育・保育方針
			10	業務を行う上での精神面・健康面への不安
			11	仕事外のご自身の家庭・家族との関係
			12	自分が思う保育や指導ができない
			13	自分の意見が通りにくい
			14	業務について自分自身で学ぶ時間が確保できない
			15	上司のマネジメント（現場の現状をわかっていない等）
			16	保育者の社会的評価の低さ
			17	給与・待遇
			18	福利厚生の内容
Q7-1 回答対象： F11=1. 2. 3. 4	その他ストレス	FA（自由回答）		あなたが現在お勤めの園での業務を行う上で、前問（Q6-1）でお答えいただいたもの以外で、どのようなことにストレスを感じますか。どのようなことでも構いませんので教えてください。 ない場合は空欄で構いません。 例）目標となる人が職場にいない/ 仕事での目標を持つことができない/ 自分の業務が園に貢献できていると思えない等
				※任意
Q7-2 回答対象： F11=5. 6. 7. 8. 9	その他ストレス	FA（自由回答）		あなたが現在お勤めの園での業務を行う上で、前問（Q6-2）でお答えいただいたもの以外で、どのようなことにストレスを感じますか。どのよ

				うなことでも構いませんので教えてください。 ない場合は空欄で構いません。 例) 目標となる人が職場にいない/ 仕事での目標を持つことができない/ 自分の業務が園に貢献できている と思えない等
				※任意
【行っている取り組みについて】				
Q8-1	教職員の業務負担軽減を図るための取り組み状況 A	SA マトリクス		あなたが現在お勤めの園で行っている【教職員の業務負担軽減を図るための取り組み】についてお伺いします。 以下に挙げる項目の中で「行われている取り組み内容」について、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選択してください。
			a	行っている
			b	行っていない
			c	わからない
			1	ICT の活用
			2	業務のアウトソーシング
			3	事務職員の活用
			4	地域人材の活用
			5	各教室に Wi-Fi が繋がっている
			6	各教室に 1 台以上タブレット端末がある
			7	各個人で仕事用のタブレットまたはスマートフォンがある
			8	勤務のシフト制
		次設問 FA に	9	休憩時間を確保するための園としての工夫
			10	短時間勤務制度
Q8-2	その他ストレス	FA (自由回答)		前問 (Q8-1) でお答えいただいたもの以外で、あなたが現在お勤めの園で行っている【教職員の業務負担軽減を図るための取り組み】があれば教えてください。 ない場合は空欄で構いません。
				※任意

Q8-3	教職員の業務負担軽減を図るための取り組み評価	SAマトリクス		<p>あなたが現在お勤めの園で行っている【教職員の業務負担軽減を図るための取り組み】について、実際に「業務負担が軽減されている」と感じていますか。</p> <p>あなたの感じ方としてあてはまるものをそれぞれ1つずつ選択してください。</p>
回答対象：Q8-1=a（行っている）を選択したものを表示			a	感じる
			b	感じない
			c	わからない
			1	ICTの活用
			2	業務のアウトソーシング
			3	事務職員の活用
			4	地域人材の活用
			5	各教室にWi-Fiが繋がっている
			6	各教室に1台以上タブレット端末がある
			7	各個人で仕事用のタブレットまたはスマートフォンがある
			8	勤務のシフト制
			9	休憩時間を確保するための園としての工夫
			10	短時間勤務制度
Q9	「休憩時間を確保するための園としての工夫」具体的内容	FA（自由回答）		<p>前問(Q8-1)の【教職員の業務負担軽減を図るための取り組み】の中で、「休憩時間を確保するための園としての工夫」を【行っている】とお答えいただいた方へお伺いします。</p> <p>「休憩時間を確保するための園としての工夫」の取り組み内容について、どのようなことを行っているのか具体的に教えてください。</p> <p>※回答は必須ではありませんが、できるだけ協力をお願いいたします。</p>
回答対象：Q8-1-9=a				※任意

Q10-1	業務負担軽減以外に教職員の勤務環境を改善するための取り組み状況 B	SA マトリクス		<p>あなたが現在お勤めの園で行っている【業務負担軽減以外に教職員の勤務環境を改善するための取り組み】についてお伺いします。</p> <p>以下に挙げる項目の中で「行われている取り組み内容」について、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選択してください。</p>
			a	行っている
			b	行っていない
			c	わからない
			1	法定研修
			2	法定外研修
			3	入職事前研修
	次設問 FA に		4	職場でのコミュニケーションが円滑になるような園としての工夫
			5	有給休暇をとりやすくするための取り組み
			6	長期休暇をとりやすくするための取り組み
			7	住宅手当
			8	通勤手当
			9	新たな教諭が入職するための受け入れ態勢（アルバイト・体験会等）
			10	結婚・出産等を機に退職した方への職場復帰支援
			11	カウンセリングを受ける機会
			12	キャリアアップの制度
Q10-2	その他ストレス	FA（自由回答）		<p>前問（Q10-1）でお答えいただいたもの以外で、あなたが現在お勤めの園で行っている【業務負担軽減以外に教職員の勤務環境を改善するための取り組み】があれば教えてください。</p> <p>ない場合は空欄で構いません。</p> <p>※任意</p>
Q10-3	業務負担軽減以外に教職員の勤務環境を改善するための取り組み評価	SA マトリクス		<p>あなたが現在お勤めの園で行っている【業務負担軽減以外に教職員の勤務環境を改善するための取り組み】について、実際に「勤務環境が改善されている」と感じていますか。</p> <p>あなたの感じ方としてあてはまるものをそれぞれ1つずつ選択してください。</p>
回答対象 Q10-			a	感じる

l=a (行っている) を選択したものを表示				
			b	感じない
			c	わからない
			1	法定研修
			2	法定外研修
			3	入職事前研修
			4	職場でのコミュニケーションが円滑になるような園としての工夫
			5	有給休暇をとりやすくするための取り組み
			6	長期休暇をとりやすくするための取り組み
			7	住宅手当
			8	通勤手当
			9	新たな教諭が入職するための受け入れ態勢 (アルバイト・体験会等)
			10	結婚・出産等を機に退職した方への職場復帰支援
			11	カウンセリングを受ける機会
			12	キャリアアップの制度
Q11	「職場でのコミュニケーションが円滑になるような園としての工夫」具体的内容	FA (自由回答)		前問(Q10-1)の【業務負担軽減以外に教職員の勤務環境を改善するための取り組み】の中で、「職場でのコミュニケーションが円滑になるような園としての工夫」を【行っている】とお答えいただいた方へお伺いします。 「職場でのコミュニケーションが円滑になるような園としての工夫」の取り組み内容について、どのようなことを行っているのか具体的に教えてください。 ※回答は必須ではありませんが、できるだけ協力をお願いいたします。
回答対象： Q10-1_4=a				※任意
【各業務の ICT 活用について】				
Q12	ICT 活用状況	SA マトリクス		あなたが現在お勤めする園での各業務の ICT 活用についてお伺いします。 以下に挙げる業務での「ICT 活用状況」について、あてはまるものをそ

				れぞれ1つずつ選択してください。
			a	活用している
			b	活用していない
			c	わからない・担当していない
			1	教育活動（遊びの時間含む）
			2	教室・園庭の整理整頓、点検及び清掃業務
			3	登降園管理
			4	送迎バスへの添乗業務（こどもの置き去り防止等）
			5	昼食（アレルギー管理等）
			6	保護者対応
			7	年間教育計画・指導案の作成
			8	連絡帳・園だより・クラスだよりの作成
			9	行事の企画運営
			10	壁面製作
			11	日々の学習準備
			12	備品の管理・設備点検
			13	預かり保育
			14	研修
			15	園児情報管理（連絡先、健康状況等）
			16	保育時間管理
			17	出欠管理
			18	遅刻・欠席の連絡（メール、チャットツール等）
			19	園からの連絡、予定の通知
			20	勤怠管理
【園務環境改善のための取り組み/要望】				
Q13	園務業務を効率的・効果的にするための工夫点や取り組み	FA（自由回答）		<p>「園の業務を効率的・効果的にするため」に、あなたが所属する園が工夫している点やあなたの思う他の園とは違った継続した取り組み等、どのようなことでも構いませんので具体的に教えてください。</p> <p>※ない場合は、「なし」とご回答ください。</p> <p>例：他の園と比べてICTを多く活用している/園独自のルールがあり業</p>

				務負荷を減らしている等
Q14	園務業務を効率的・効果的にするための園への要望	SA マトリクス		あなたが所属する園に対して、「園での業務を効率的・効果的にするため」に、どのような取り組みを検討・採用してほしいですか。以下の取り組みの中から、検討・採用してほしい順に1位～3位を選択してください。
			a	1位
			b	2位
			c	3位
			1	IT デバイス（タブレット/パソコン/スマートホン等）や Wi-Fi 環境の充足
			2	ICT の整備
			3	ペーパーレス化
			4	教諭・保育士の確保
			5	勤務のシフト制
			6	業務のアウトソーシング
			7	支援スタッフの活用
			8	園のマネジメントの工夫（例：ルール決め等）
			9	その他（ ）
			10	あてはまるものはない
Q15	園務業務を効率的・効果的にするための国・自治体への要望	SA マトリクス		国・自治体に対して、「園での業務を効率的・効果的にするため」に、どのような取り組みを検討・採用してほしいですか。以下の取り組みの中から、検討・採用してほしい順に1位～3位を選択してください。
			a	1位
			b	2位
			c	3位
			1	ICT 活用に係る補助の強化
			2	自治体や国への申請手続等のペーパーレス化
			3	人材の紹介

			4	人材確保に係る補助金の強化
			5	教職員の処遇改善
			6	他の園における業務負担軽減・勤務環境改善の情報共有
			7	その他（ ）
			8	あてはまるものはない
【インタビュー応諾】				
Q16	インタビュー 応諾	SA(単一回 答)		本調査の目的でもあります「園等で実施している園務改善の取り組み事例収集」のため、貴園にて取り組まれている「取り組み」等について、オンラインまたは場合によっては対面にて30分程度のインタビューをさせていただく可能性がございます。実施の際には是非ともご協力を賜りたく存じます。 つきましては、こちらのご協力を依頼させていただいた場合の、ご対応可否を教えてください。
			1	オンライン/対面、どちらでも協力できる
			2	オンラインのみ協力できる
			3	対面のみ協力できる
			4	オンライン/対面、どちらも協力できない
			5	わからない

2.2.2 基礎集計結果・分析

本調査の有効回収総数は9315サンプルであった。以下表2-1の質問番号に沿って基礎集計結果を記載する。

(1) デモグラフィック情報 (F1~F16) の基礎集計

F1について、図2-2に示す通り、回答者の性別は約1割が男性、約9割が女性である。

■F1：性別

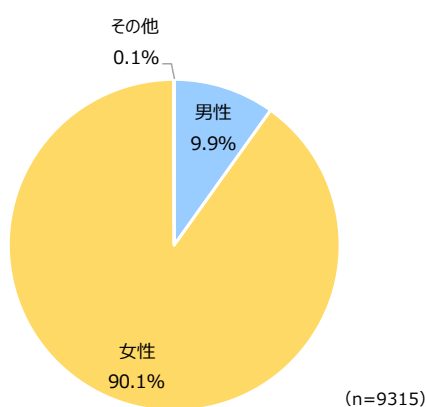


図2-2 性別

F2について、図2-3に示すように年齢の分布は24歳以下から60歳以上まで大きな偏りなく分布している。

■F2：年齢

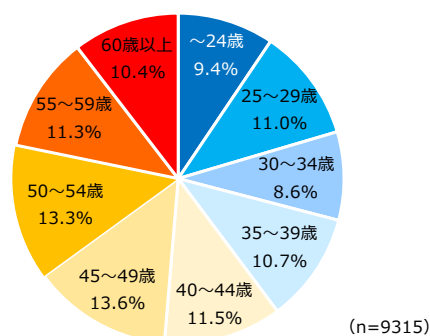


図2-3 年齢

F3 について、配偶者の有無は図 2-4 に示すように、63.3%の回答者に配偶者が存在し、36.7%の回答者に配偶者が存在しないといった回答結果になった。

■F3：配偶者有無

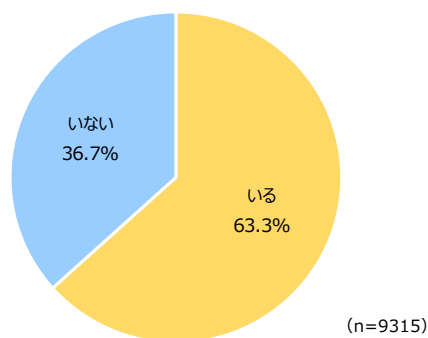


図 2-4 配偶者有無

F4 について、子供の有無は図 2-5 に示すように、62.1%の回答者は子供がいると回答し、37.9%の回答者は子供がいないと回答している。

■F4：子供の有無

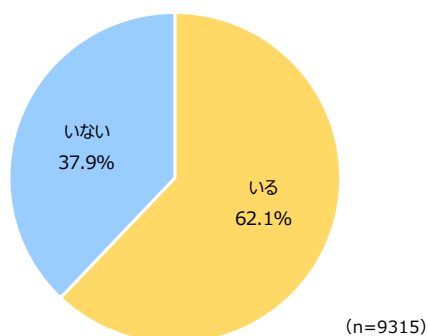


図 2-5 子供の有無

F5 の最終学歴については、図 2-6 に示すように 57.5%が短期大学を卒業しており、31.3%が大学学部を卒業している結果となった。

■ F5：最終学歴

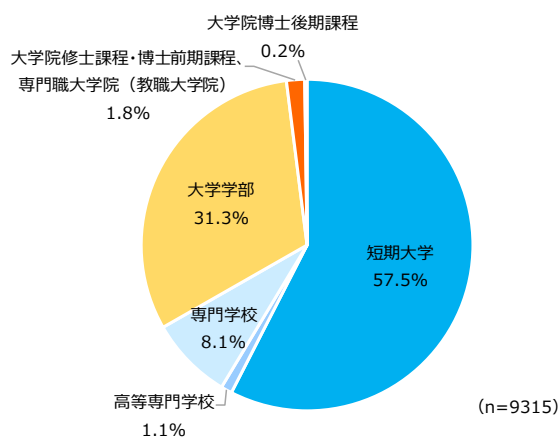


図 2-6 最終学歴

F7 の所属する園については、図 2-7 に示すように国公立の園に所属する回答者は 46.1%、私立の園に所属する回答者は 53.9%という結果となった。

■ F7：園分類

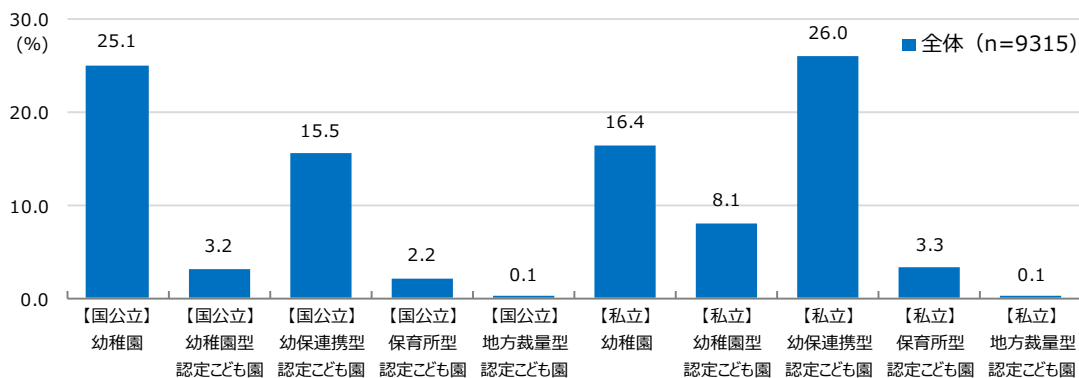


図 2-7 園分類

F8の所属する園の所在地について各都道府県別での回答結果は図2-8のようになった。そのうち東京都の23区、指定都市、中核市に所在する園は40.3%、それ以外の場所に所在する園は59.7%という結果となった。

■F8：都道府県

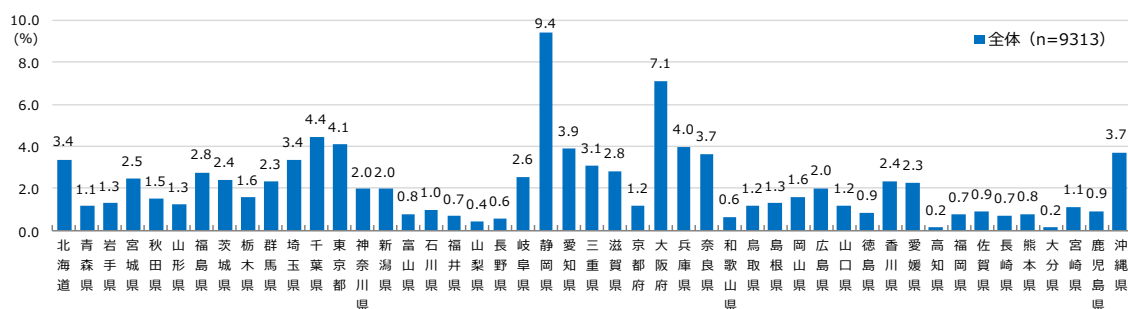
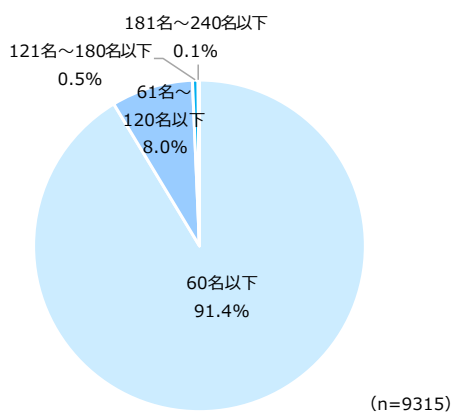


図2-8 都道府県

F9について、所属する園の3歳未満の在籍児童数と3歳以上の在籍児童数（2023年4月2日時点）の回答結果は図2-9のようになった。今回は3歳以上の在籍児童数によって園の規模を想定して分析を行った。

■F9：在籍児童数/「a. 3歳未満」「b. 3歳以上」

「a. 3歳未満」



「b. 3歳以上」

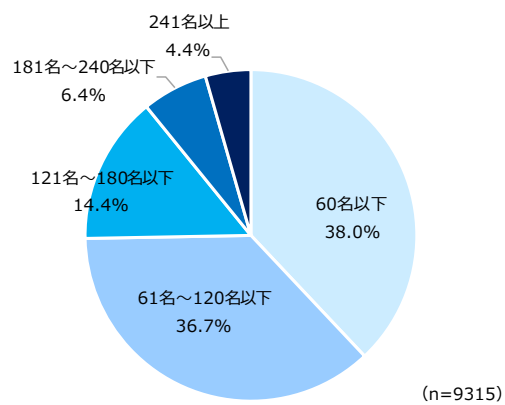


図2-9 所属する園の在籍児童数

F10 においては、回答者を含め、所属する園で通常勤務（法定労働時間の枠内で設定された所定労働時間に従って労働する勤務形態）で教育活動に携わる教員数の回答結果は図 2-10 のようになった。

■ F10：教員数

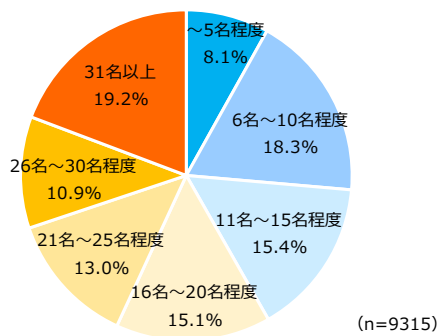


図 2-10 教育活動に携わる教員数

F11 において、回答者の役職については図 2-11 のような分布となった。本調査においては、園長、副園長、教頭、主幹教諭、指導教諭、主幹保育教諭、指導保育教諭、主任保育士を担当する回答者をマネジメント層（41.2%）と定義し、それ以外の回答者については一般層（58.8%）と定義する。

■ F11：役職

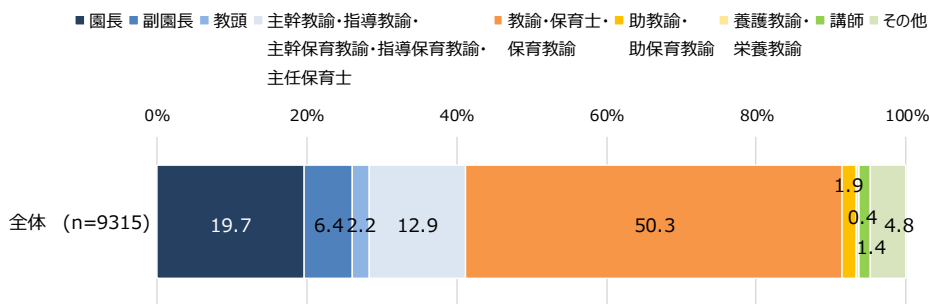


図 2-11 役職

F12 の設問において、図 2-12 に示すように担任を受け持っていると答えた回答者が 46.6%、受け持っていない回答者が 53.4% という結果となった。

■F12：担任有無

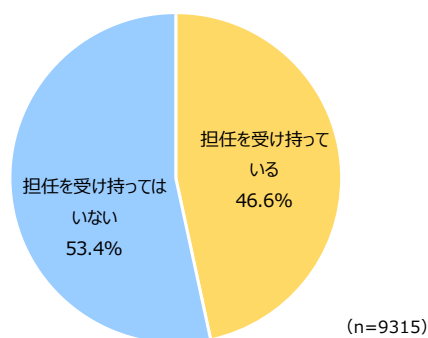


図 2-12 担任有無

F13 において、幼稚園教諭・保育教諭としての通算勤務年数は図 2-13 のような分布となった。そのうち 5 年未満の勤務歴の割合は 18.9%、5 年以上の勤務歴の割合は 81.1% という分布となった。

■F13：通算勤務年数

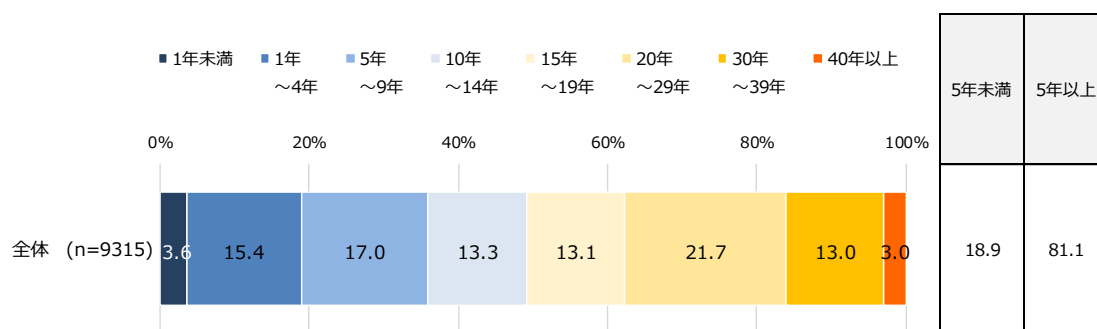


図 2-13 通算勤務年数

F14において、図 2-14 に示すように転園経験の有無について、転園の経験がある回答者が 59.9%、経験のない回答者が 40.2%という結果となった。

■F14：転園経験

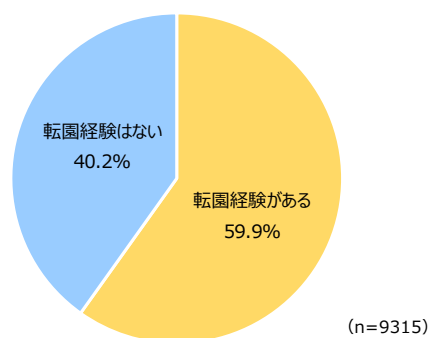


図 2-14 転園経験

F15において、図 2-15 に示すように過去の職業経験（幼稚園、保育教諭を除く）の有無については、経験者は 26.6%となり、これまで幼稚園教諭、保育教諭のみの職業経験となる回答者は 73.4%となった。

■F15：教諭・保育士以外の経歴

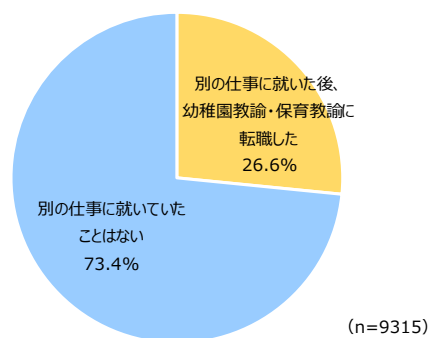


図 2-15 教諭・保育士以外の経歴

F16において、図 2-16 に示すように職場復帰の経験有無については、経験がある回答者は 24.3%、経験がない回答者は 75.7%という結果となった。

■F16：復職経験

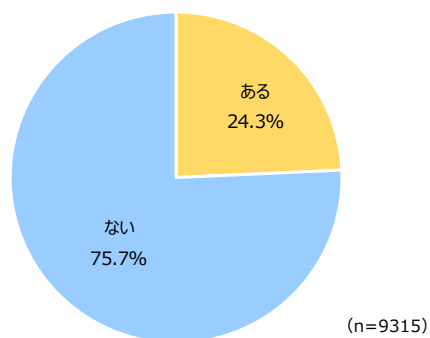


図 2-16 復職経験

(2) 園務の実態における設問の基礎集計結果

Q1において、やりがいを感じる業務について本設問では、一日及び通年で行う12の各園務について感じるやりがいを4段階評価にて回答してもらった。担当していない業務については「この業務を担当していない」を選択する。業務を担当していないサンプルを除いた回答者全体の結果は図2-17のようになった。

もっともやりがいを感じているという回答が多かった業務は「教育活動」で、回答者のうち約7割が「やりがいを感じる」、約3割が「どちらかといえばやりがいを感じる」という結果となった。このことから、回答したほぼ全ての教諭等が教育活動にやりがいを感じながら勤務していることがわかった。

他方で業務を担当していてかつやりがいを感じていない人（どちらかといえばやりがいを感じない、やりがいを感じない、の選択者）の割合が相対的に多い上位3つの業務は「備品の管理・設備点検」の31.7%、「預かり保育」の22.1%、「送迎バスへの添乗業務」の20.2%、という結果となった。

この結果については、「備品の管理・設備点検」については、業務の結果・成果が見えづらい点がやりがいを感じづらい要因の一つではないかと本事業のインタビュー実施園からコメントがあった。また「預かり保育」については、例えば、非常勤職員を常勤職員がコーディネートすることも求められており、実際には保護者対応も含めて保育者としての専門性やスキルが必要でありながら、常勤職員の重責が重いことが想定されるため、やりがいを感じるスコアが相対的に低くなる結果になったのではないかと有識者からコメントがあった。また、「送迎バスへの添乗業務」については、他業務に比べてややルーティンワークになりがちな業務となることからモチベーションの維持が難しくなってしまうのではないかといったコメントをインタビュー実施園からいただいた。

■Q1：業務のやりがい ※担当していないスコアを除いたもの

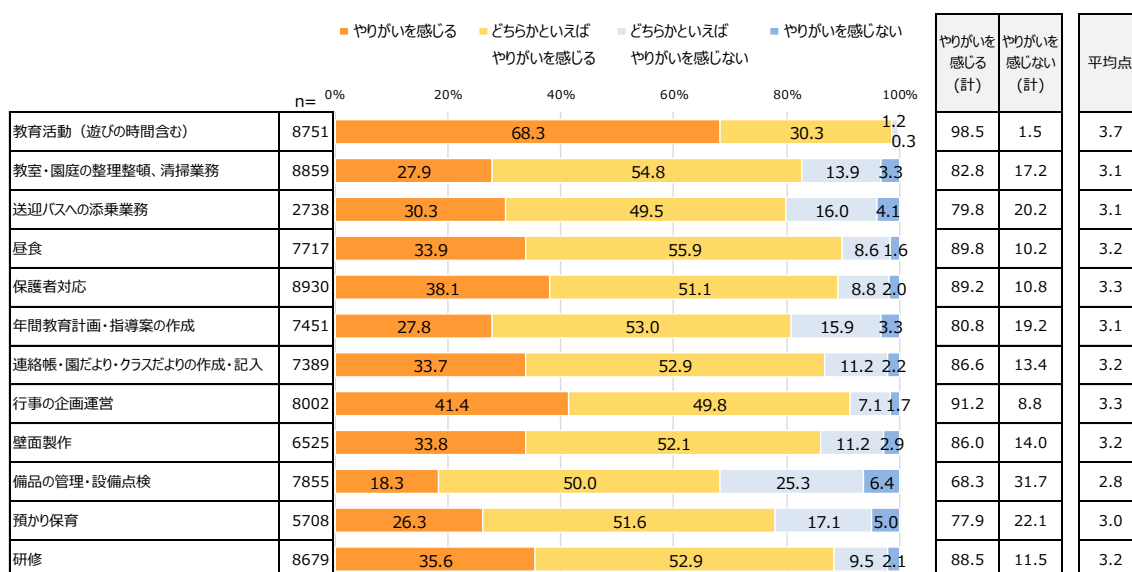


図2-17 業務のやりがい

次に Q2 の重要と感じる業務について、一日及び通年で行う 12 の各園務について感じる重要度を 4 段階評価にて回答してもらった。担当していない業務については「この業務を担当していない」を選択する。業務を担当していないサンプルを除いて各業務を比較すると図 2-18 のようになった。

各業務の割合を比較すると、全ての業務が 3 点以上となっていることから多くの回答者が各業務の重要度を感じていることが示唆される。その中でも、やりがいに関する設問と同様に、もっとも重要と感じているという回答が多かった業務は「教育活動」で、回答者のうち約 94% が「重要だと感じる」、約 6% が「どちらかといえば重要だと感じる」という結果となっている。このことから、回答したほぼ全ての教諭等が教育活動は重要であると感じながら勤務していることがわかった。平均点については、重要だと感じる = 4 点、どちらかといえば重要だと感じる = 3 点、どちらかといえば重要だと感じない = 2 点、重要だと感じない = 1 点、にて各業務にて平均点を算出した。業務を担当していないサンプルは平均点の計上に加えていない。

他方で、業務を担当していかつ重要度を感じていない人（どちらかといえば重要だと感じない、重要だと感じない、の選択者）の割合が相対的に多い上位 3 つの業務は「壁面製作」の 18.9%、「送迎バスへの添乗業務」の 7.6%、「預かり保育」の 6.6%、という結果となった。

この結果について、「壁面製作」が相対的に重要だと感じられにくい理由としては、製作時間を多く取られてしまうにも関わらず掲示する期間が限られてしまうことや掲示した製作物が子供の成長に寄与することが実感しづらいことが要因の一つではないかとインタビュー実施園からコメントいただいた。また、「送迎バスへの添乗業務」及び「預かり保育」については、Q1 と同様な理由によることも考えられる。

■ Q2：業務の重要度 ※担当していないスコアを除いたもの

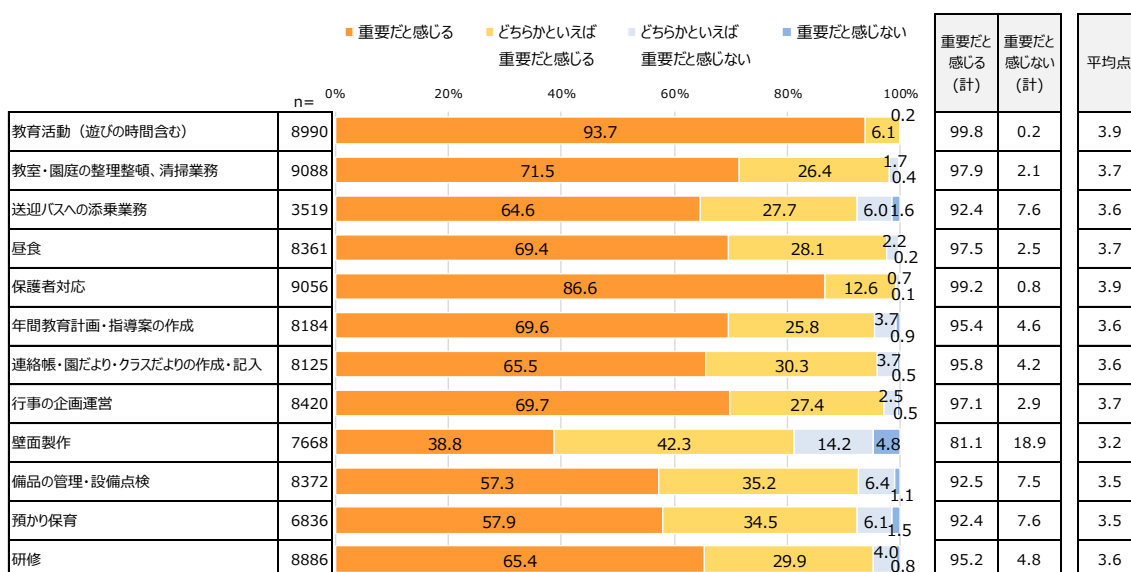


図 2-18 業務の重要度

次に Q3 の時間的に負担だと感じる業務について、一日及び通年で行う 11 の各園務について感じる時間的な負担感を 4 段階評価にて回答してもらった。担当していない業務については「この業務を担当していない」を選択する。業務を担当していないサンプルを除いて各業務を比較すると図 2-19 のようになった。業務を担当していてかつ時間的な負担感を感じる人（負担を感じる、どちらかといえば負担を感じる、の選択者）の割合が相対的に多い上位 3 つの業務は「年間教育計画・指導案の作成」の 57.3%、「連絡帳・園だより・クラスだよりの作成・記入」の 53.7%、「行事の企画運営」の 50.2%、という結果となった。

平均点の算出方法は、負担を感じる = 4 点、どちらかといえば負担を感じる = 3 点、どちらかといえば負担に感じない = 2 点、負担に感じない = 1 点、にて各業務にて平均点を算出した。業務を担当していないサンプルは平均点の計上に加えていない。平均点が最も低かった業務は「昼食」の 1.8 となっており、最も高い業務は「年間教育計画・指導案の作成」の 2.6 となっている。

■ Q3：業務の時間的な負担感 ※担当していないスコアを除いたもの

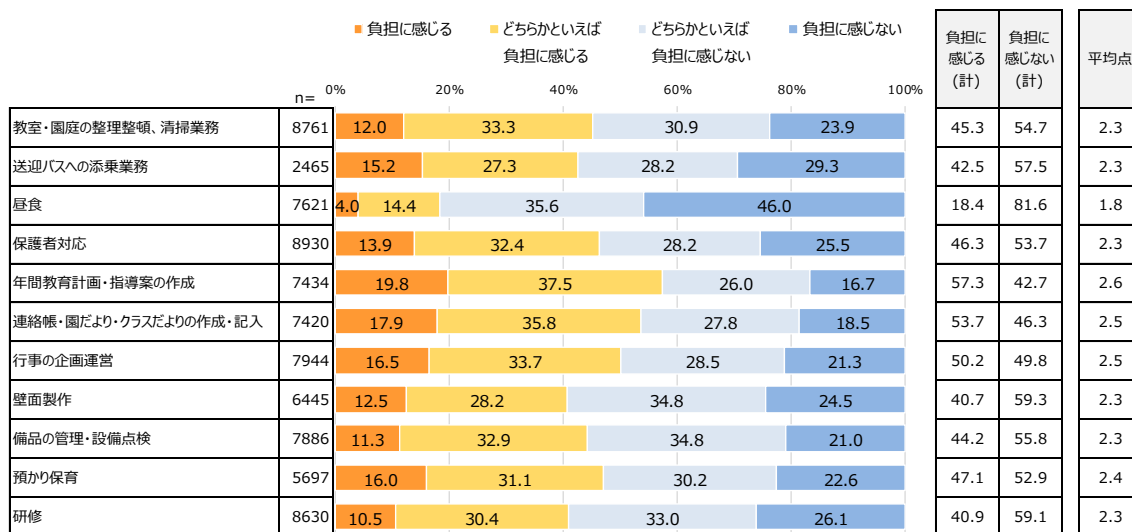


図 2-19 業務の時間的な負担感

次に Q4 の精神的に負担だと感じる業務について一日及び通年で行う 12 の各園務について感じる精神的な負担感を 4 段階評価にて回答してもらった。担当していない業務については「この業務を担当していない」を選択する。回答者全体の結果は図 2-20 のようになった。業務を担当していてかつ精神的な負担感を感じる人（負担を感じる、どちらかといえば負担を感じる、の選択者）の割合が相対的に多い上位 3 つの業務は「保護者対応」の 58.8%、「年間教育計画・指導案の作成」の 53.8%、「行事の企画運営」の 50.2%、という結果になった。

平均点の算出方法は、負担を感じる = 4 点、どちらかといえば負担を感じる = 3 点、どちらかといえば負担に感じない = 2 点、負担に感じない = 1 点、にて各業務にて平均点を算出した。業務を担当していないサンプルは平均点の計上に加えていない。平均点が最も低かった業務は「昼食」の 1.8 となっており、最も高い業務は「保護者対応」の 2.6 となっている。

■ Q4：業務の精神的な負担感 ※担当していないスコアを除いたもの

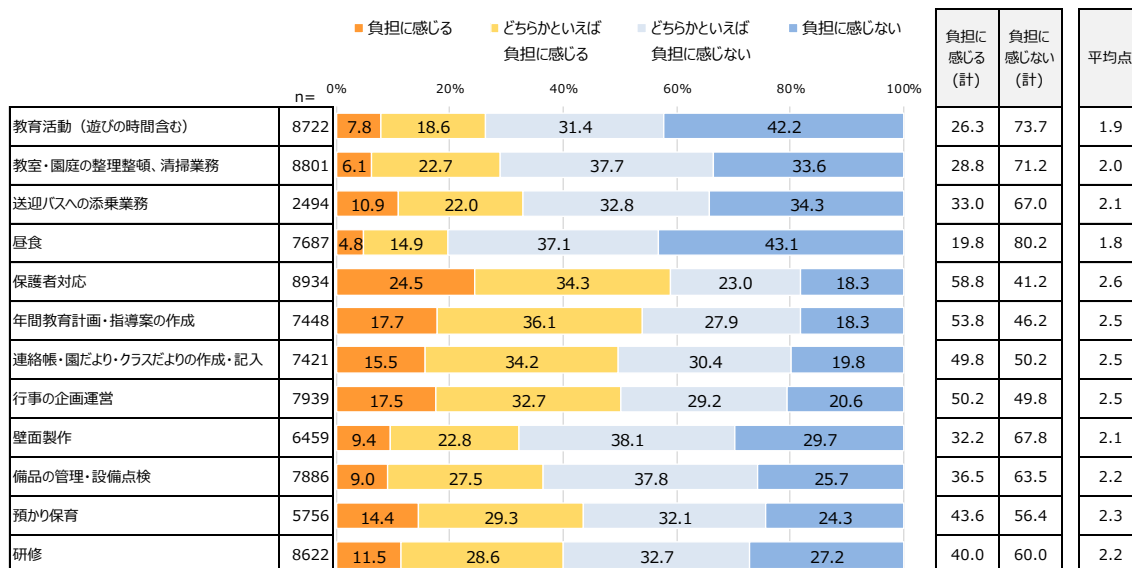


図 2-20 業務の精神的な負担感

Q5 は平均的な出勤時刻と退勤時刻を聞いており、結果は図 2-21 となった。半数以上の 63.0%が 8 時台に出勤しており 7 時台の出勤者を含めると約 9 割が 8 時台までに出勤していることがわかる。また、退勤時刻は 57.7%の回答者が 17 時台までに退勤していることがわかる。

また、平均的な毎日の休憩時間については、図 2-22 に示すように、平均 35.4 分となり非常に短いことが明らかとなった。このような結果となった背景としては、本来であれば休憩時間であっても子供の対応がどうしても必要になってしまう等で十分な休憩時間を確保することが難しくなっていることが示唆される。

続いて毎日の平均的な出勤時刻、退勤時刻、休憩時間から勤務時間を算出した結果が図 2-23 に示す通りである。平均勤務時間は 529.7 分（約 8 時間 50 分）という結果となった。

毎日行う各業務に係る時間を図 2-24 に示す。平均時間は当該業務に関わっていないとして 0 分と回答のあったサンプルを除いて算出している。Q3 において時間的な負担感が多い業務であった「連絡帳・園だより・クラスだよりの作成・記入」は平均 41.4 分要していることが明らかとなった。

次に毎日ではないが行う各業務に係る時間を図 2-25 に示す。平均時間は当該業務に関わっていないとして 0 分と回答のあったサンプルを除いて算出している。Q3 において時間的な負担感が多い業務であった「行事の企画運営」は平均 310.3 分、「年間教育計画・指導案の作成」は平均 212.7 分要しており、特に「行事の企画運営」は他の業務と比較して最も時間を要していることが明らかとなった。

■ Q5-1：出勤時刻と退勤時刻

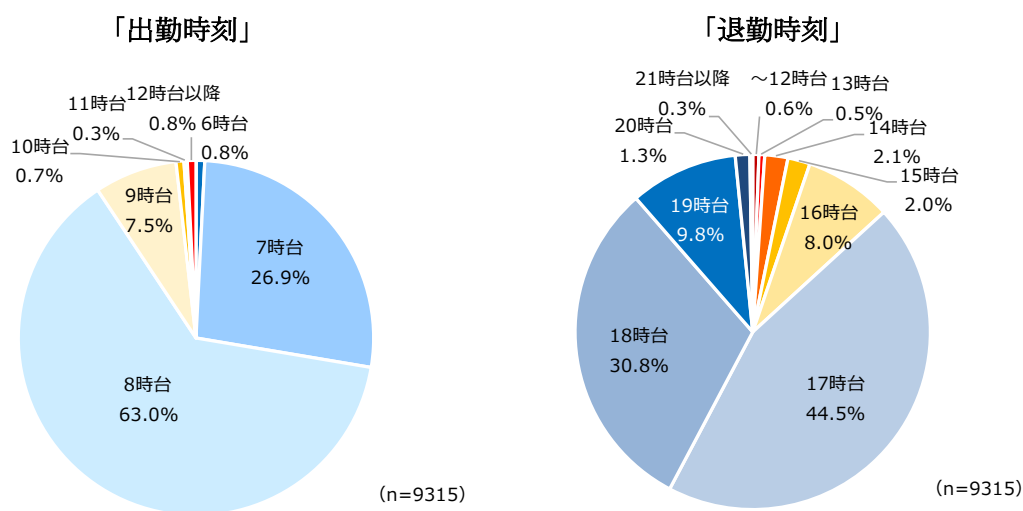


図 2-21 平均的な出勤・退勤時刻

■ Q5-2 : 休憩時間

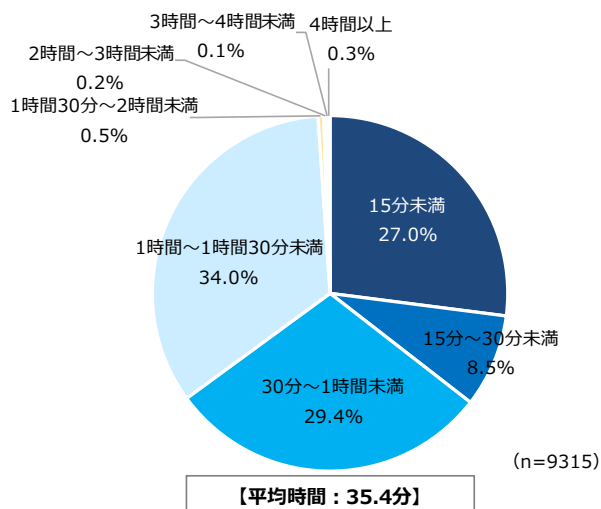


図 2-22 平均的な休憩時間

■ Q5 : 勤務時間

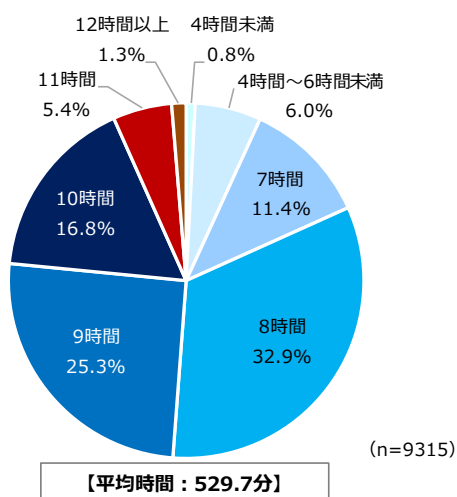


図 2-23 平均的な勤務時間

■ Q5-3: 毎日の各業務に係る時間

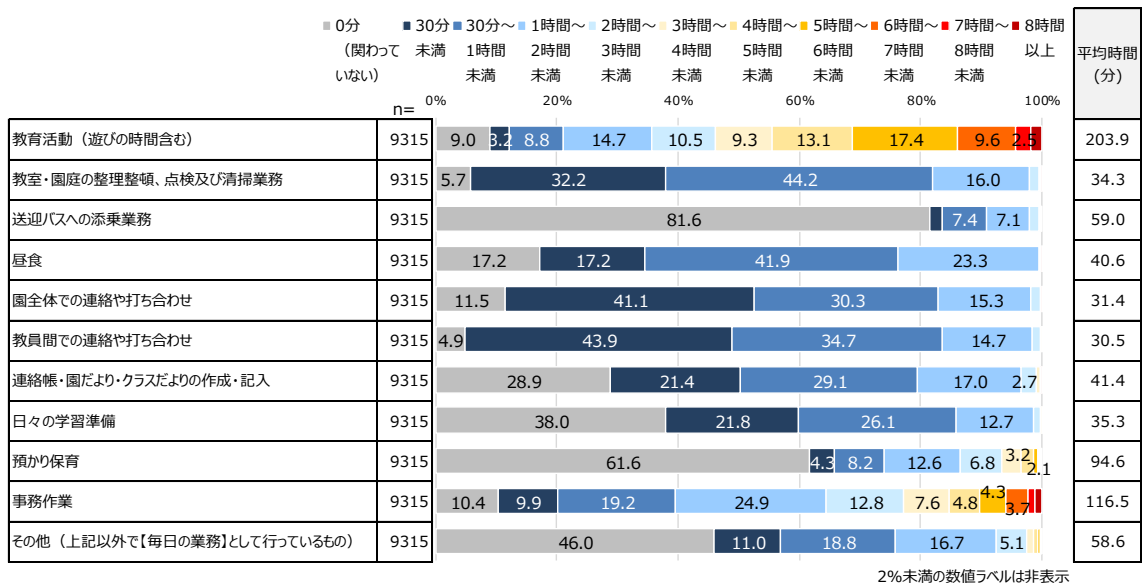


図 2-24 毎日の各業務に係る時間

■ Q5-4: 毎日ではない各業務に係る時間

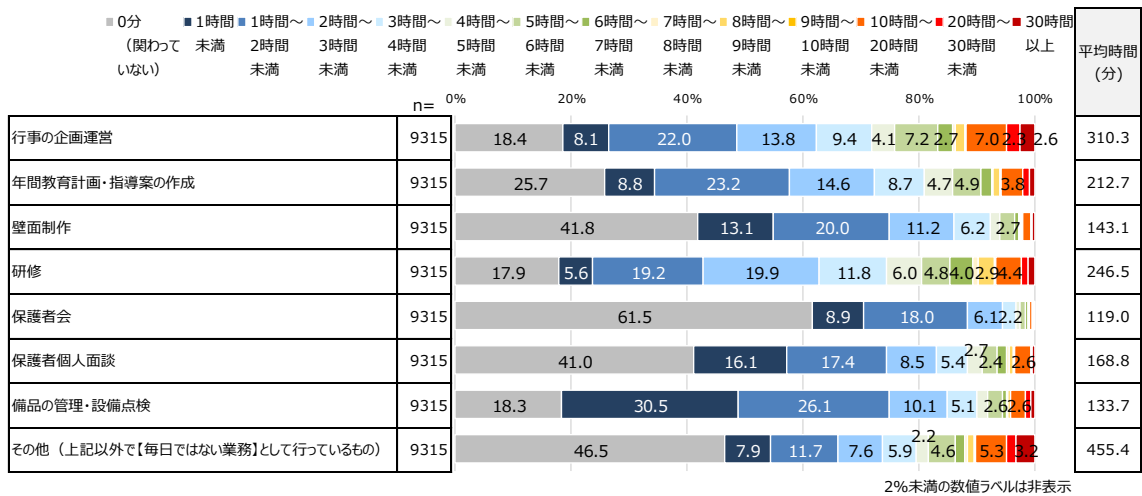


図 2-25 毎日ではない各業務に係る時間 (月間合計時間)

Q6では、各ストレス要因の程度を尋ねており、ストレスの要因はF11で分類したマネジメント層と一般層では異なるという考えのもと、マネジメント層と一般層で回答する設問を一部変更している。マネジメント層の回答結果を図2-26に示し、一般層の回答結果を図2-27に示す。

平均点の算出方法は、ストレスを感じる＝4点、ややストレスを感じる＝3点、あまりストレスを感じない＝2点、ストレスを感じない＝1点、にて各要因にて平均点を算出した。マネジメント層において平均点が高かったストレス要因上位3つは「仕事の裁量権・役割の重さ」の3.2、「事務的な業務が多すぎること」、「今後の幼稚園教諭の・保育教諭への将来性・見通し」の3.1となっている。一方で一般層において平均点が高かったストレス要因上位3つは「給与・待遇」の3.0、「幼稚園教諭・保育教諭が不足していること」の2.9、「今後の幼稚園教諭・保育教諭への将来性・見通し」の2.8となり、マネジメント層と一般層との違いが確認された。

■Q6-1：マネジメント層のストレス度

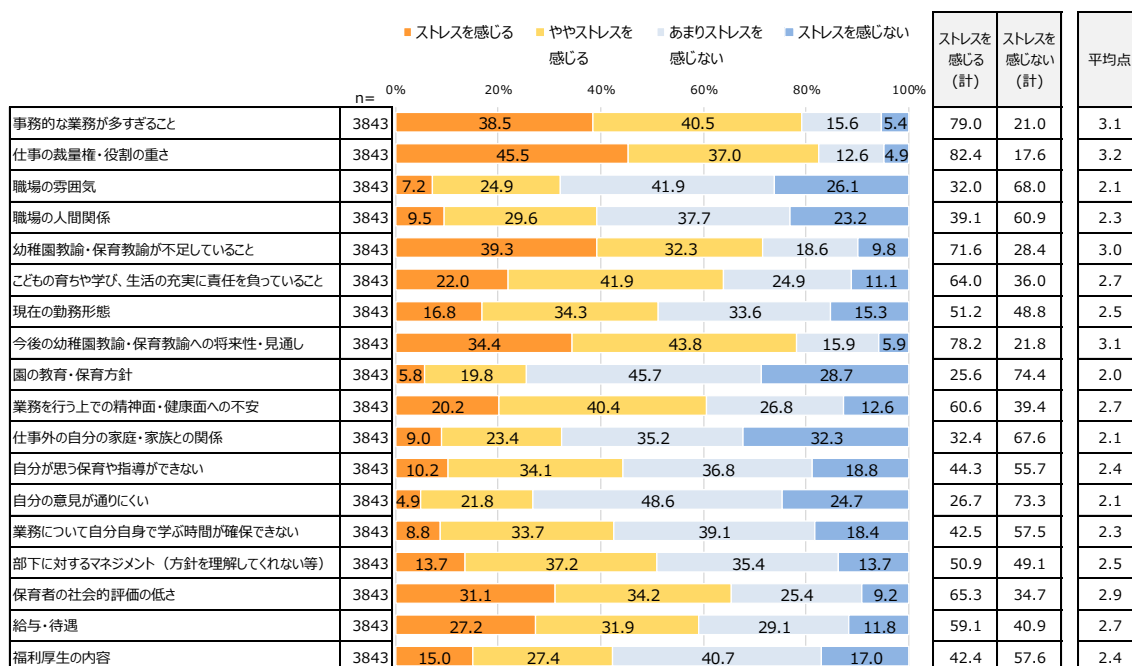


図2-26 マネジメント層の各ストレス要因の感じ方

■ Q6-2：一般層のストレス度

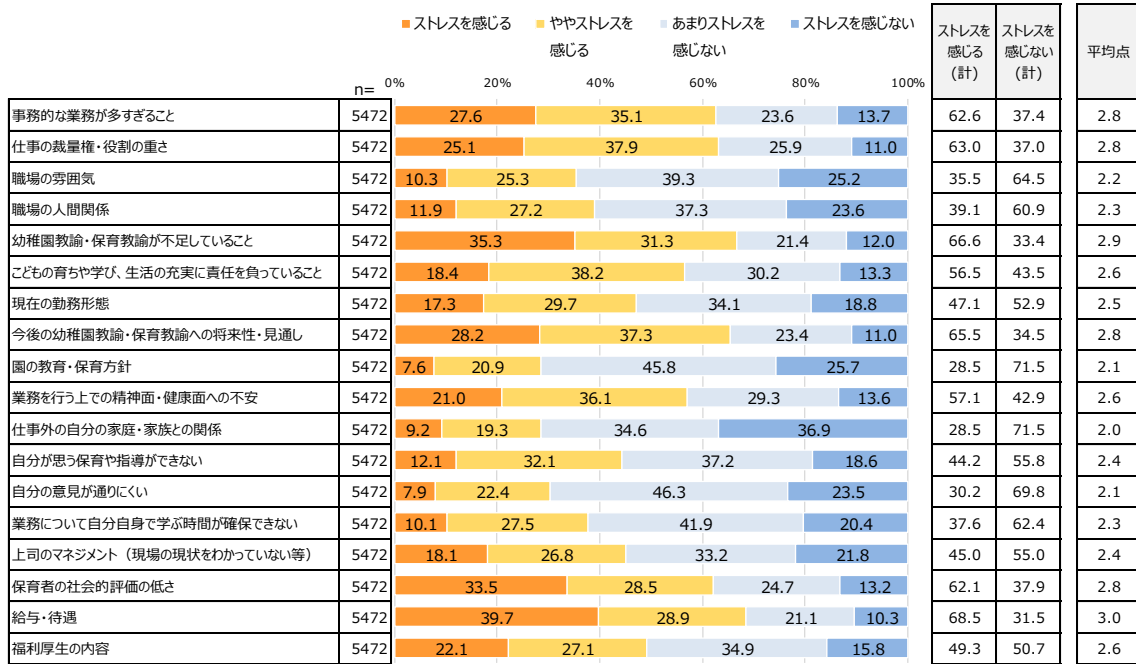


図 2-27 一般層の各ストレス要因の感じ方

Q7において、Q6でのストレス要因以外でのストレスに感じることを自由記述にて回答いただいた結果をテキストマイニングにて共起ネットワーク図を図2-28に示す。共起ネットワーク図に記載されている多くの単語はQ3、Q4、Q6の設問文や回答項目文にて記載のあった単語であったため、複合的なストレス要因を回答されたことが示唆される。

テキストマイニングを実施する際、フリーソフトウェアのKH coderを用いた。KH coderを用いたテキストマイニングの特徴として、文章中出现する単語と単語がともに出現する関係性を可視化できる共起ネットワークを示すことで、直感的に文章の特徴を捉えやすくすることが挙げられ、共起ネットワーク図の見方として出現回数が多い語ほど円が大きくなり、線と線で結ばれている語は関連性が強くなる。また、円の位置や近さには全く意味がないことを留意する必要がある。以降記載するテキストマイニングの共起ネットワーク図の結果は全てKH coderを用いた結果である。

■ Q7 : Q6 以外のストレス要因

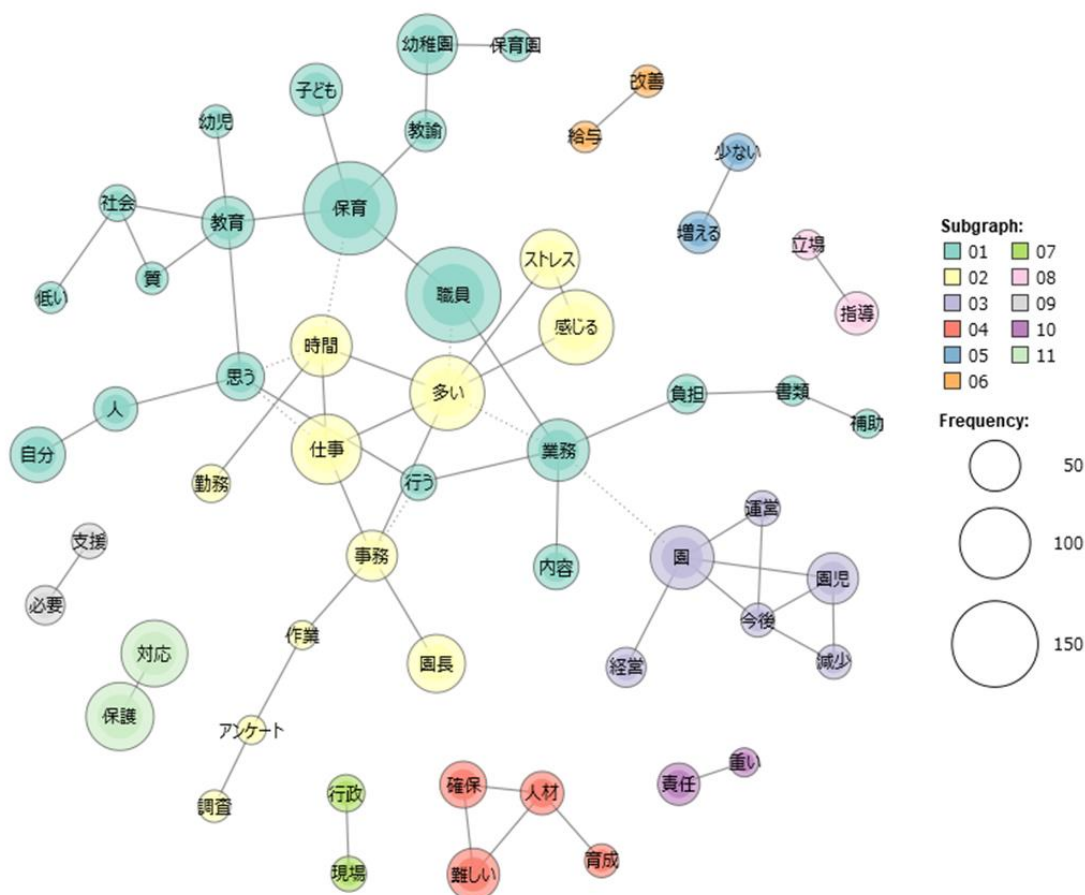


図 2-28 Q7 の自由記述回答結果の共起ネットワーク図 (サンプル数 : 574)

続いて、Q8の教職員の業務負担軽減を図るための取り組み状況の回答結果を図2-29に示す。「ICTの活用」、「事務職員の活用」、「勤務のシフト制」の3つの取り組みは回答者の所属する園の半数以上で取り組みを行っていることが明らかとなった。また、「各教室に1台以上タブレット端末がある」、「各個人で仕事用のタブレットまたはスマートフォンがある」といったデバイスの導入については回答者の所属する園の半数以上が未導入であることが明らかとなった。

また、Q8-1での項目以外の取り組みがある回答者を対象に自由記述にて回答してもらった結果からテキストマイニングを行い共起ネットワーク図に示したのが図2-30である。パートや教諭以外のスタッフを雇用していることや各園の独自の制度を整えていることが示唆される結果となった。

さらに、Q8-1で「行っている」と回答のあったサンプルのうち、それぞれの取り組みについての評価の回答結果を図2-31に示す。全ての取り組みにおいて半数以上が効果を感じている結果となっており、特に「事務職員の活用」と「各個人で仕事用のタブレットまたはスマートフォンがある」の項目においては7割以上が取り組みを評価していることが明らかとなった。

■ Q8-1：教職員の業務負担軽減を図るための取り組み状況

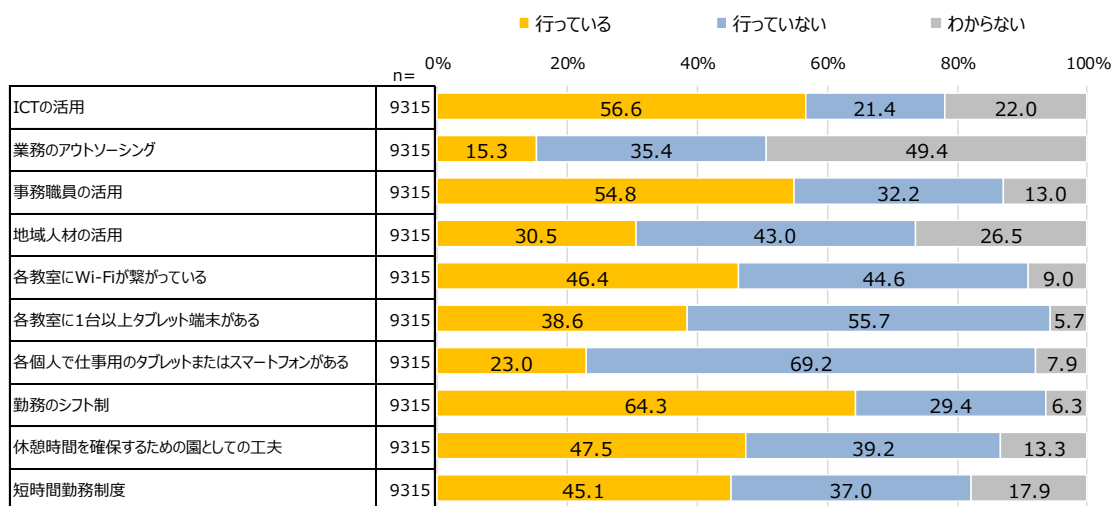


図2-29 教職員の業務負担軽減を図るための取り組み状況

■ Q8-2 : Q8-1 以外の取り組み

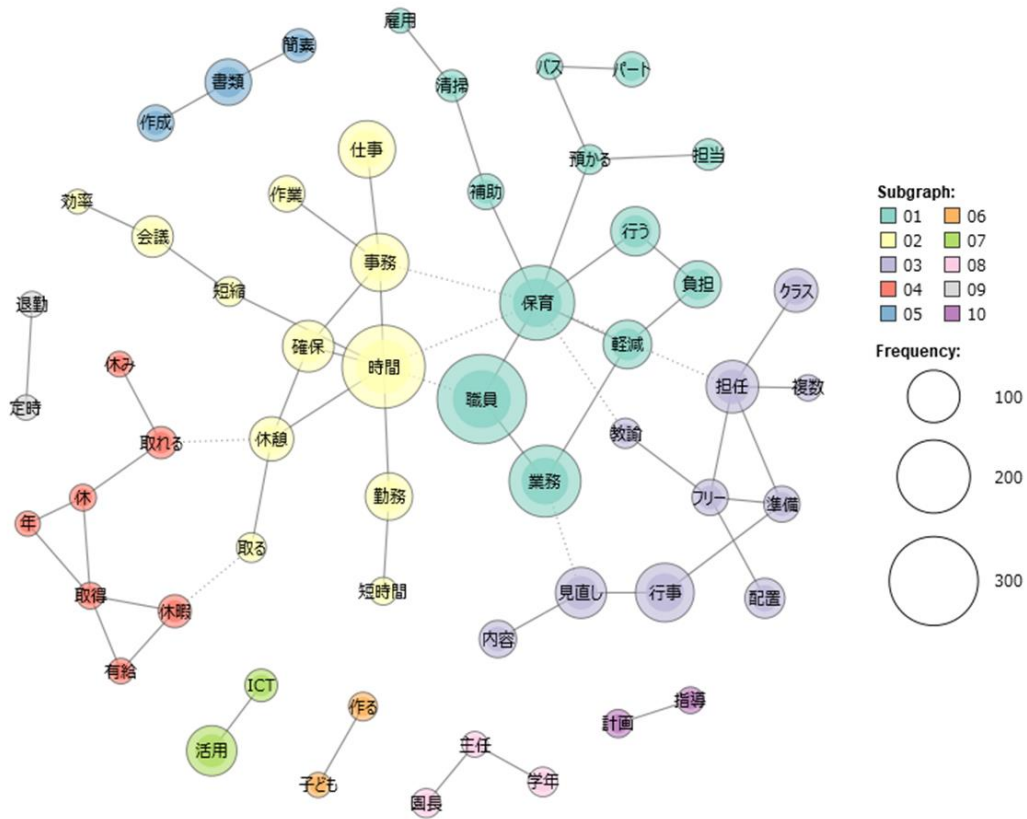


図 2-30 Q8-2 の自由記述回答結果の共起ネットワーク図 (サンプル数 : 1120)

■ Q8-3 : 教職員の業務負担軽減を図るための取り組み評価

※Q8-1 で行っているものについての評価

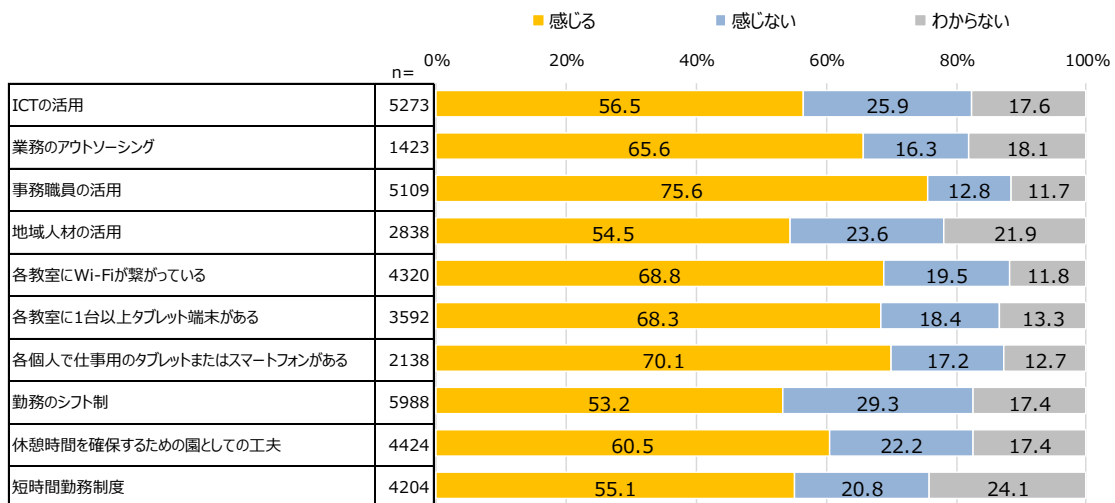


図 2-31 教職員の業務負担軽減を図るための取り組み評価

続いて Q10 について、Q8 の教職員の業務負担軽減を図るための取り組み以外の勤務環境を改善する取り組み状況の回答結果を図 2-33 に示す。「職場でのコミュニケーションが円滑になるように園としての工夫」、「有給休暇をとりやすくするための取り組み」、「住宅手当」、「通勤手当」、「キャリアアップの制度」の 5 つの取り組みは回答者の所属する園の半数以上で取り組みを行っていることが明らかとなった。

また、Q10-1 での項目以外の取り組みがある回答者を対象に自由記述にて回答してもらった結果からテキストマイニングを行い共起ネットワーク図に示したのが図 2-34 である。休暇を取得するための工夫やコミュニケーションを取りやすい環境づくり、職員の採用・分担といった単語が共起される結果となった。

加えて Q10-1 で「行っている」という回答があったサンプルのうち、それぞれの取り組みについての評価の回答結果を図 2-35 に示す。「有給休暇をとりやすくするための取り組み」、「長期休暇をとりやすくするための取り組み」、「職場でのコミュニケーションが円滑になるように園としての工夫」、「結婚・出産等を機に退職した方への職場復帰支援」は所属する園が取り組みを実施していると回答した者のうち 7 割以上の者が勤務環境が改善したと効果を感じているとの回答があり、有意義な取り組みであることが示唆される。

■ Q10-1：業務負担軽減以外に教職員の勤務環境を改善するための取り組み状況

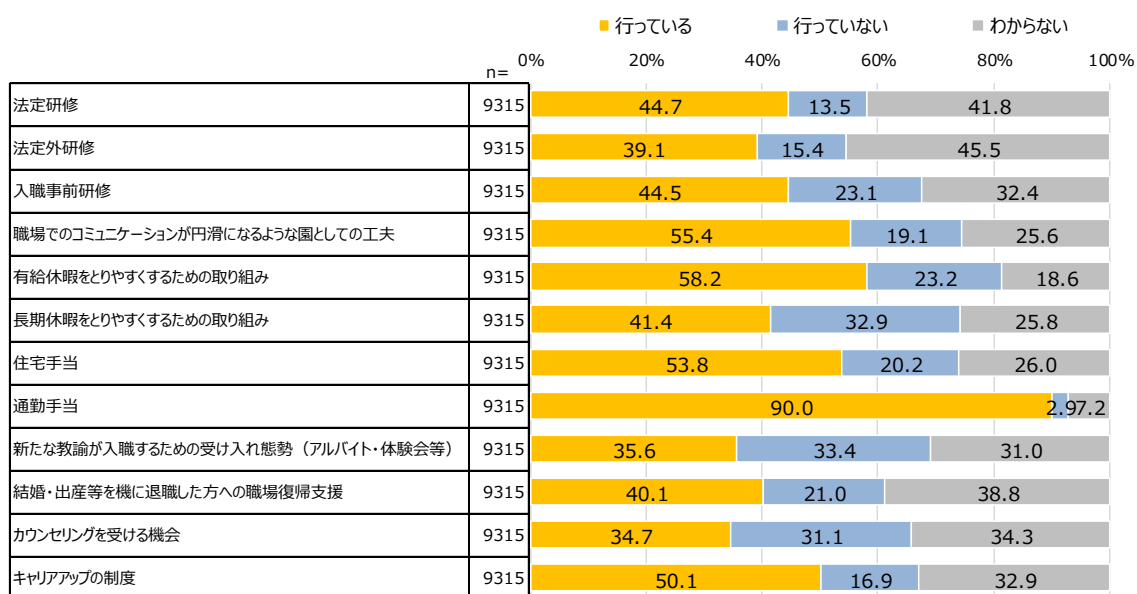


図 2-33 業務負担軽減以外に教職員の勤務環境を改善するための取り組み状況

■ Q10-2 : Q10-1 以外の取り組み

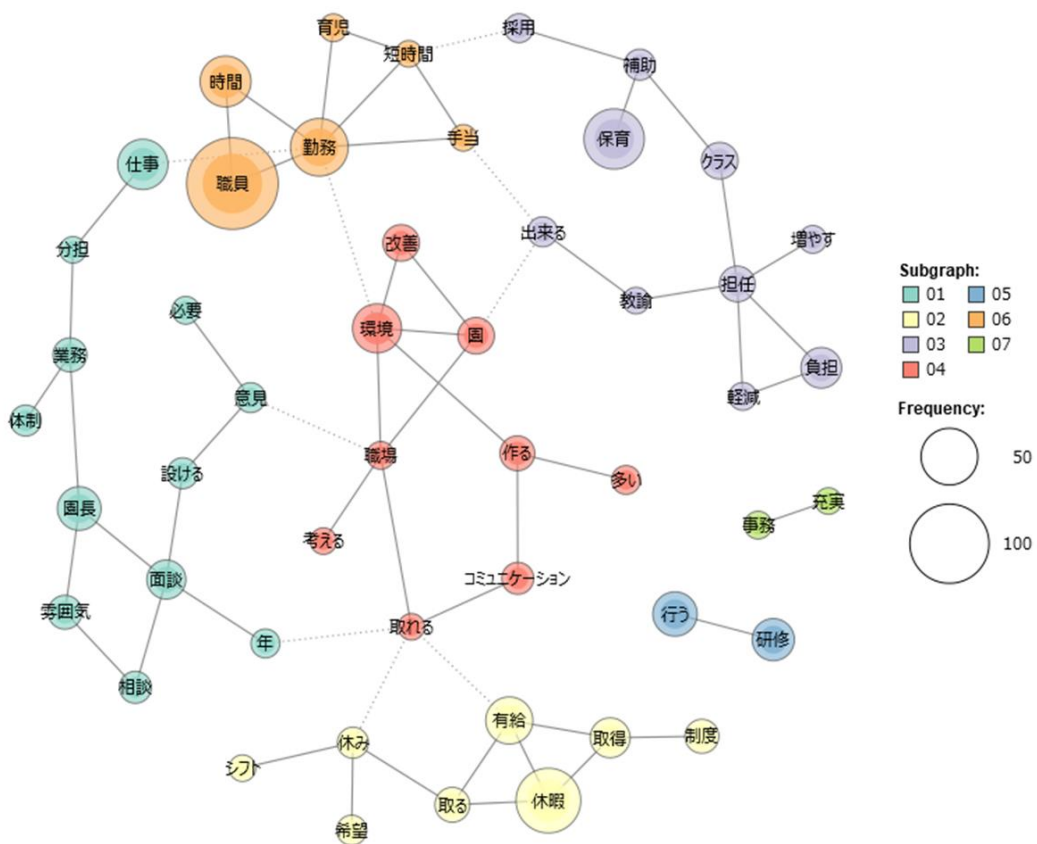


図 2-34 Q10-2 の自由記述回答結果の共起ネットワーク図 (サンプル数 : 382)

■ Q10-3：業務負担軽減以外に教職員の勤務環境を改善するための取り組み評価

※Q10-1で行っているものについての評価

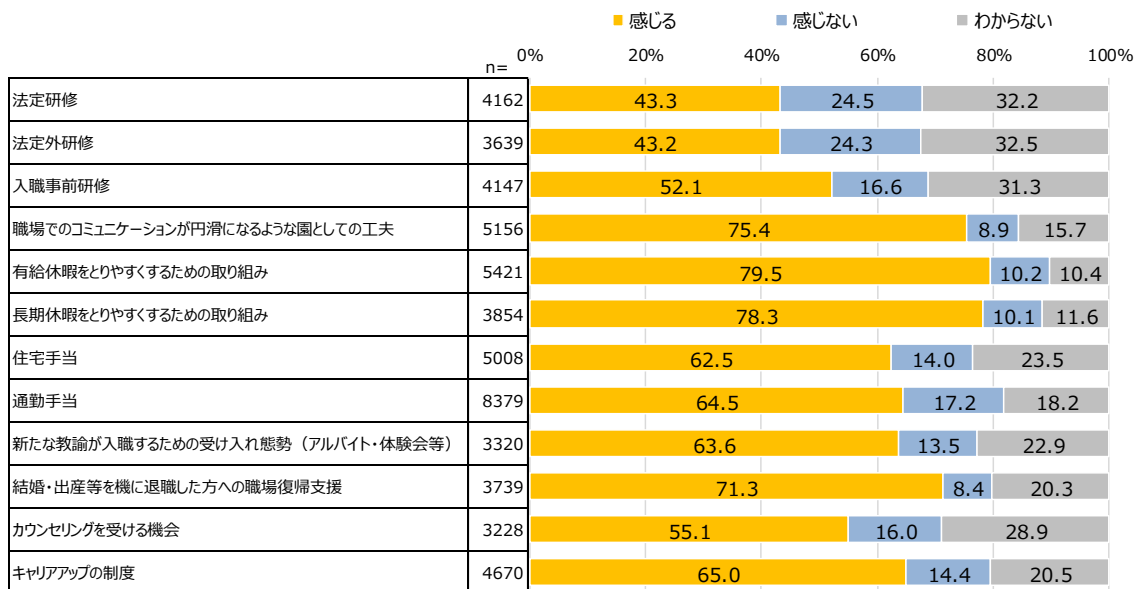


図 2-35 業務負担軽減以外に教職員の勤務環境を改善するための取り組み評価

また、Q11において、Q10-1の取り組みの中で、「職場でのコミュニケーションが円滑になるような園としての工夫」を「行っている」とした回答者に対して、どのような事を行っているのか自由記述にて回答してもらった結果からテキストマイニングを行い共起ネットワーク図に示したのが図2-36である。コミュニケーションをするうえで雰囲気づくりや環境整備を工夫していることが示唆される結果となった。

■Q11：職場でのコミュニケーションが円滑になるような園としての工夫

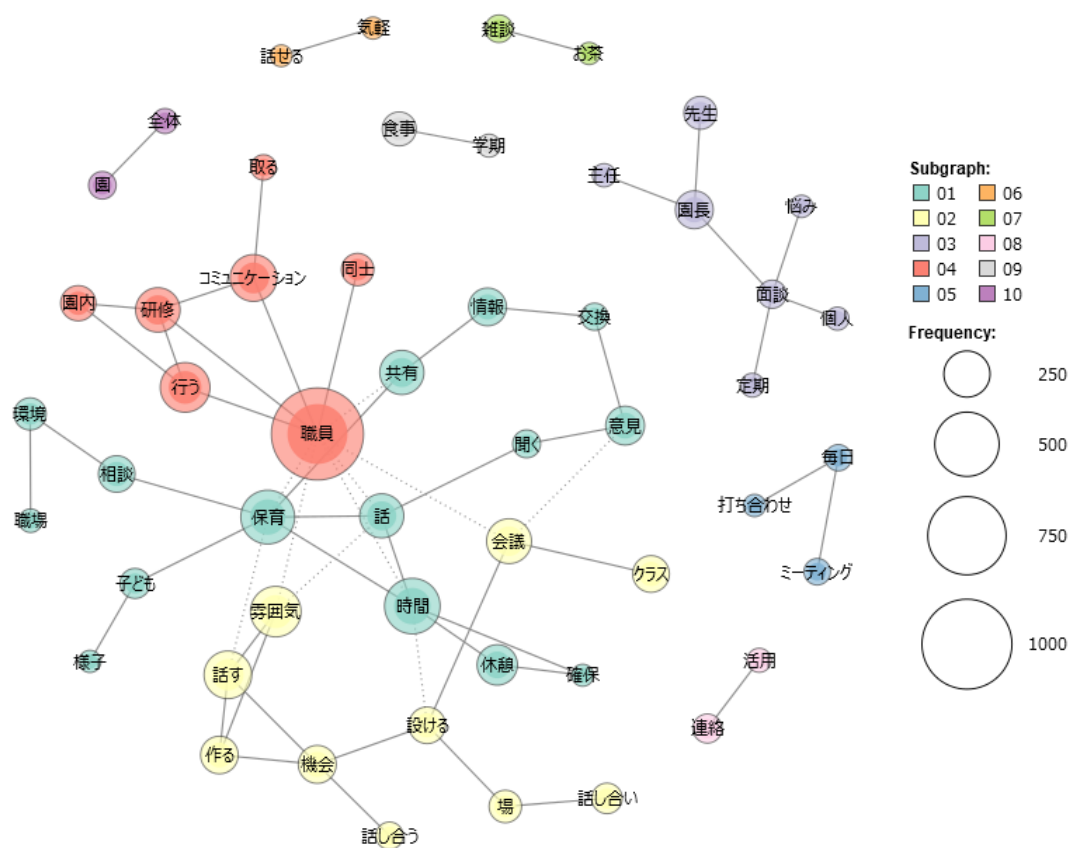


図 2-36 Q11 の自由記述回答結果の共起ネットワーク図（サンプル数：2195）

続いて、Q12において園の業務の効率化・負担軽減として活用される「ICT活用」について細かく各業務での活用状況を比較した結果を図2-37にて示す。

■Q12：ICT活用状況

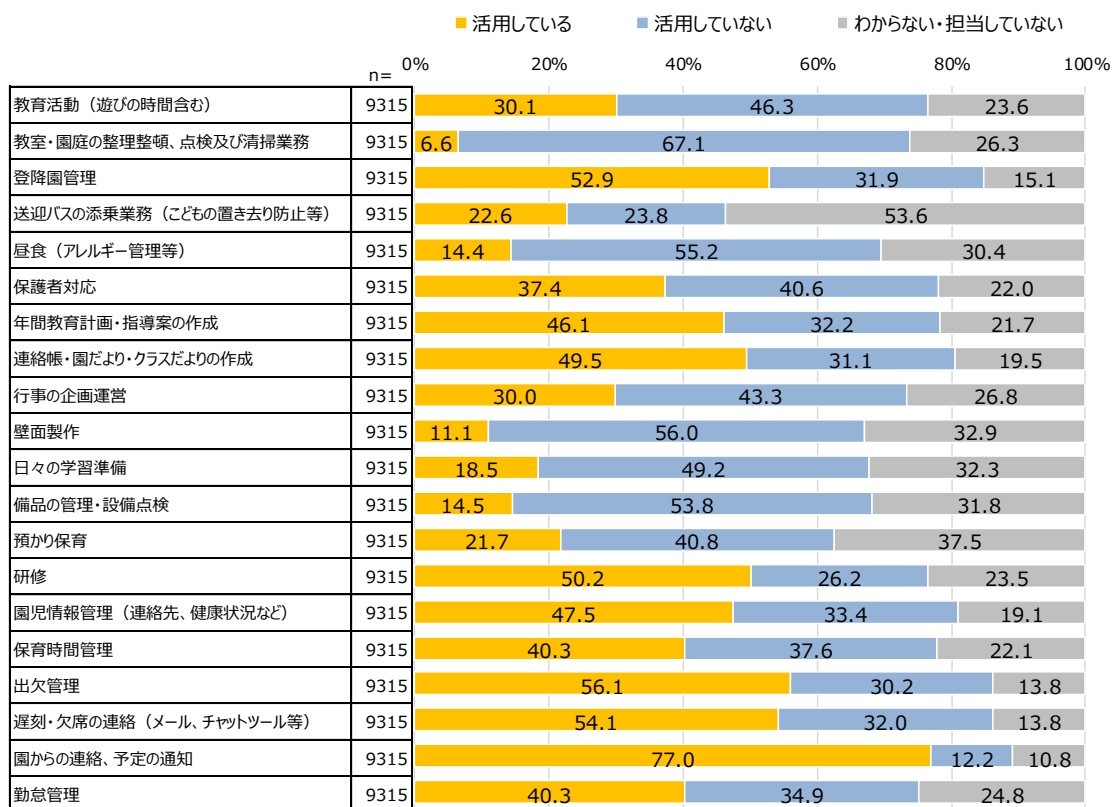


図2-37 ICT活用状況

また、Q13において、「園の業務を効率的・効果的にするため」に、回答者が所属する園が工夫している点やあなたの思う他の園とは違った継続した取り組み等を自由記述にて回答してもらった結果からテキストマイニングを行い共起ネットワーク図に示したのが図2-38である。所属する園独自のルールやタブレット導入やアプリ使用といったICTの活用がされていることが示唆される結果となった。

■Q13：回答者が所属する園が工夫している点や他の園とは違った継続した取り組み

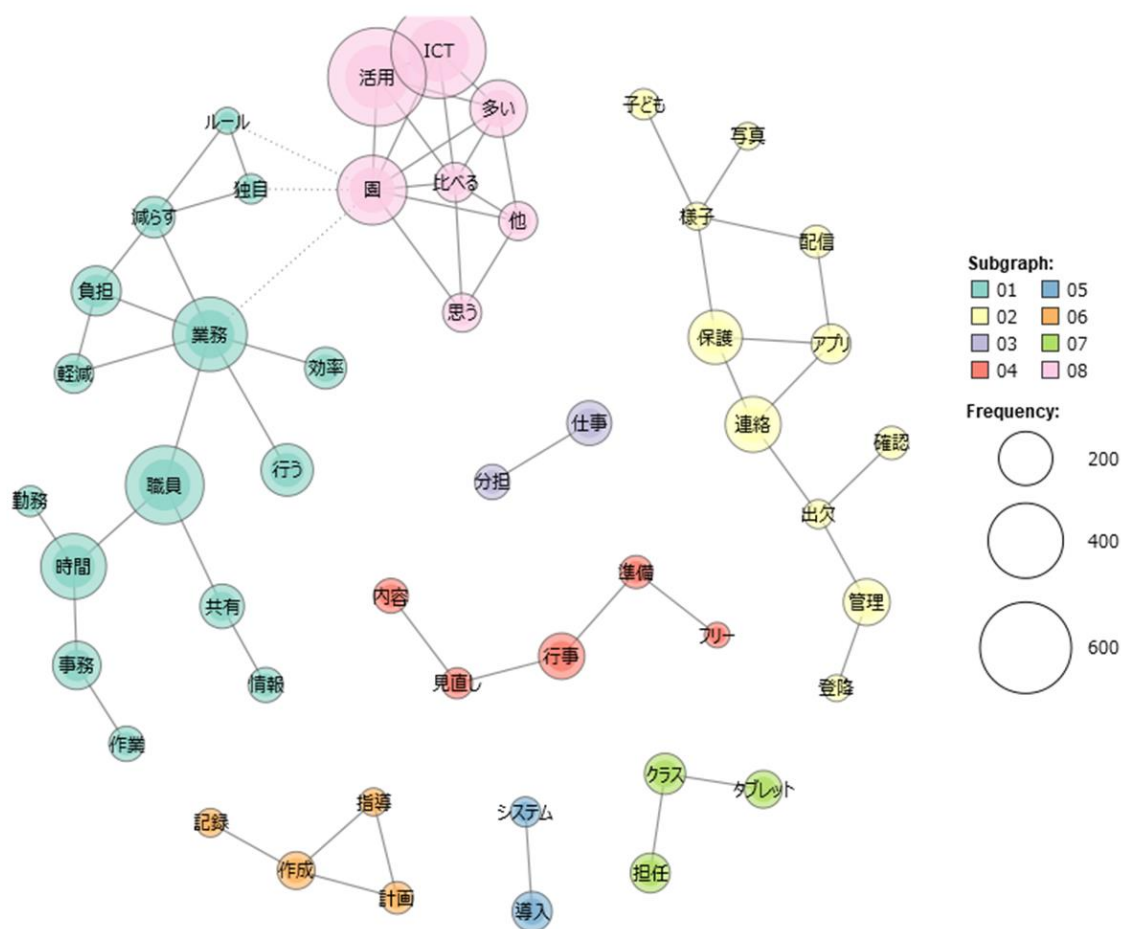


図 2-38 Q13 の自由記述回答結果の共起ネットワーク図（サンプル数：2476）

Q14について、園務業務を効率的・効果的にするための園への要望として要望順に3位までに示した結果を図 2-39 に示す。半数以上の回答者が「幼稚園教諭・保育教諭の確保」を第1位の要望として回答し、第2位、3位を含めると他の項目と比較して非常に多くの要望があることが明らかとなった。また、次点で「ITデバイスやWi-Fi環境の充足」が要望として多くなる結果となった。

■Q14：園務業務を効率的・効果的にするための園への要望

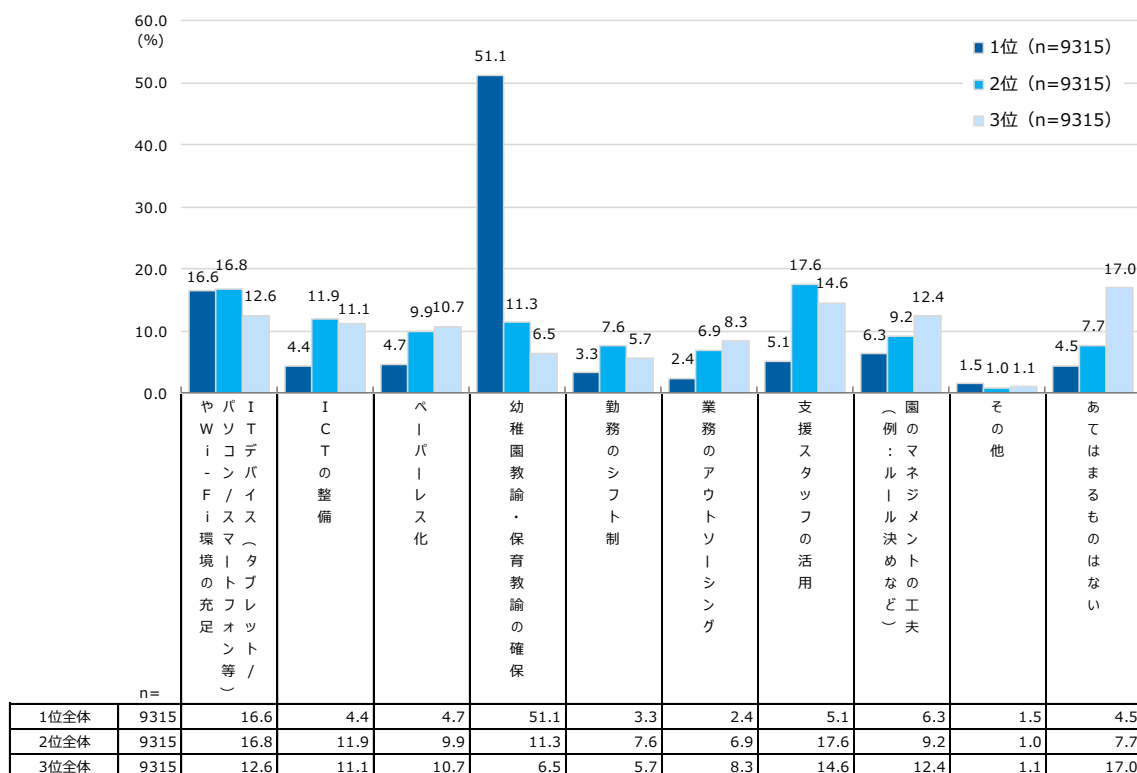


図 2-39 園務業務を効率的・効果的にするための園への要望（上位3つまで回答）

また Q15 について、園務業務を効率的・効果的にするための国・自治体への要望として要望順に 3 位までに示した結果を図 2-40 に示す。半数以上の回答者が「教職員の処遇改善」を第 1 位の要望として回答した。

■Q15: 園務業務を効率的・効果的にするための国・自治体への要望

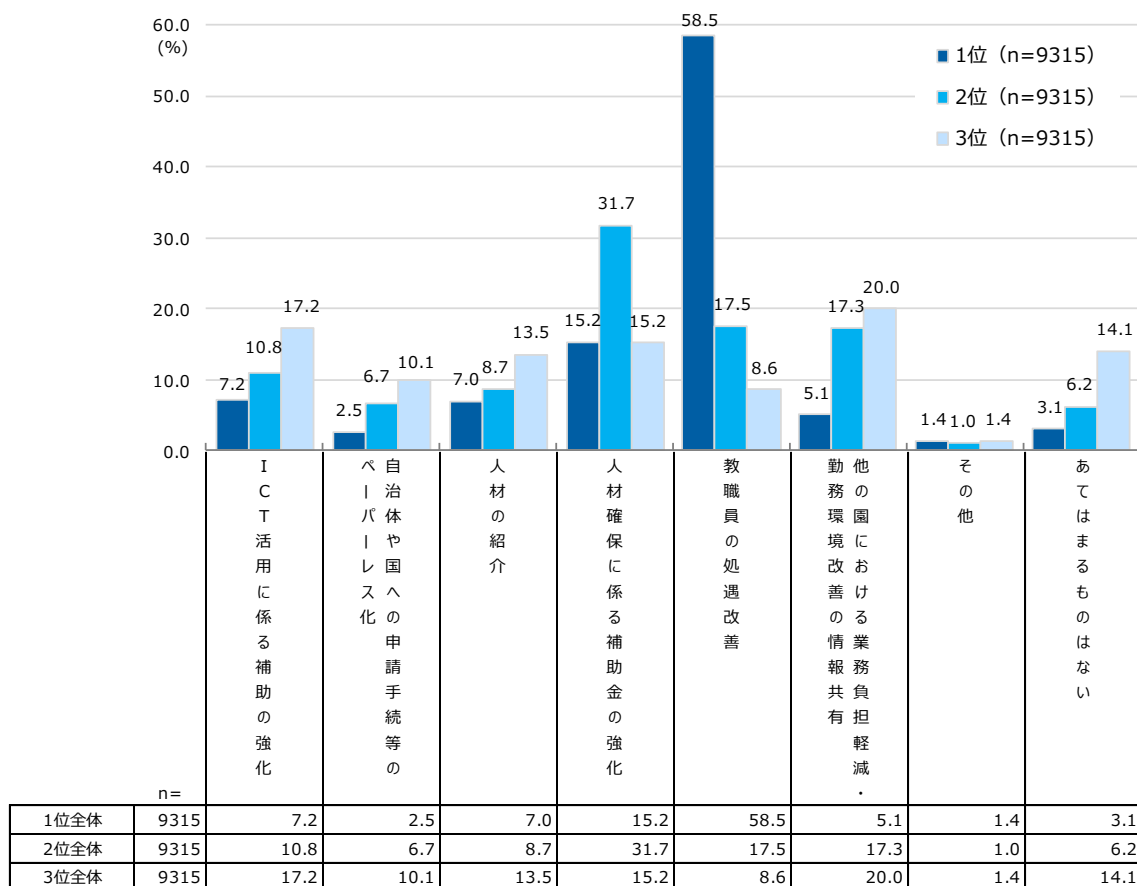


図 2-40 園務業務を効率的・効果的にするための国・自治体への要望
(上位 3 つまで回答)

2.2.3 クロス集計結果・分析

先述 2.2.2 での基礎集計結果・分析を踏まえ、本節ではデモグラフィック情報と各設問とのクロス集計結果・分析を記載する。デモグラフィック情報については、地域の特性及び園の規模等の事情を踏まえたものとする観点から、個人属性の「F2：年齢」、所属園の属性情報となる「F7：幼稚園分類」、「F8：地域」、「F9：規模（在籍児数）」、所属園での役割の情報となる「F11：役職有無」、「F12：担任の有無」の計 6 項目でのクロス集計・分析結果を抽出し、記載する。

Q1 において、各業務のやりがいの平均点を「F2：年齢」、「F8：地域」、「F9：規模（在籍児数）」、「F11：役職有無」、「F12：担任の有無」の 5 項目それぞれの属性ごとで示した結果を表 2-2 に示す。平均点の算出方法は、やりがいを感じる＝4 点、どちらかといえばやりがいを感じる＝3 点、どちらかといえばやりがいを感じない＝2 点、やりがいを感じない＝1 点、にて各業務にて平均点を算出した。業務を担当していないサンプルは平均点の計上に加えていない。表の示し方について、平均点の赤掛けの箇所はオレンジ掛けの全体集計の平均点以上の項目となっており、青掛けの箇所は全体集計の平均点未満の項目となっている。やりがいが多いと回答する者が多ければ平均点が高くなる。また、各業務のこの表における平均点の上位・下位 3 項目をそれぞれ赤太字、青太字にて示しており、表 2-3～2-6 も同様の規則で示す。

年齢においての各業務全体の相対的な傾向として、キャリアが浅い 24 歳までと 20 年以上近くのキャリアを積んだ層が多く分布する 45 歳以上において平均点が高くなる傾向となった。一方で 25 歳～39 歳の各業務に対する全体的な平均点が低くなる結果となった。

また所属園の属性での相対的な傾向として、3 歳以上の児童数が 60 名以下の小規模園での多くの業務で平均点が高くなる傾向が確認された。一方で、241 名以上の 3 歳以上の児童数を有する大型の園において「教室・園庭の整理整頓・清掃業務」、「昼食」、「連絡帳・園だより・クラスだよりの作成・記入」、「研修」、「送迎バスへの添乗業務」の業務の平均点が低くなる傾向にあることが確認された。

加えて所属園における役割別の結果として、マネジメント層と一般層、担任の受け持ちの有無で平均点の差が確認された。

■Q1：各業務に対するやりがいの各項目での平均点

表 2-2 Q1 における 5 項目でのクロス集計結果

		サン プル数	平均点												
			(遊 びの 時 間 含 む)	教 室 ・ 園 庭 の 整 理 整 頓 、 清 掃 業 務	送 迎 バ ス へ の 添 乗 業 務	屋 食	保 護 者 対 応	・ 指 導 案 の 作 成	年 間 教 育 計 画	・ ク ラ ス だ よ り の 作 成 ・ 記 入	連 絡 帳 ・ 園 だ よ り	行 事 の 企 画 運 営	壁 面 製 作	備 品 の 管 理 ・ 設 備 点 検	預 か り 保 育
全体		9315	3.67	3.07	3.06	3.22	3.25	3.05	3.18	3.31	3.17	2.80	2.99	3.22	
F2: 年齢	～24歳	877	3.62	2.96	3.13	3.23	3.28	2.96	3.15	3.18	3.22	2.79	3.08	3.15	
	25～29歳	1026	3.59	2.91	2.99	3.14	3.22	2.90	3.10	3.19	3.13	2.62	2.88	3.05	
	30～34歳	804	3.58	2.87	2.96	3.12	3.14	2.81	3.03	3.13	3.13	2.60	2.84	3.07	
	35～39歳	1000	3.64	3.01	2.98	3.18	3.15	2.91	3.09	3.21	3.12	2.66	2.86	3.14	
	40～44歳	1075	3.65	3.06	3.06	3.25	3.18	3.01	3.13	3.28	3.13	2.74	2.97	3.21	
	45～49歳	1271	3.66	3.12	3.04	3.24	3.27	3.10	3.23	3.36	3.22	2.86	2.99	3.25	
	50～54歳	1235	3.74	3.18	3.13	3.27	3.33	3.18	3.25	3.42	3.17	2.90	3.02	3.31	
	55～59歳	1057	3.75	3.23	3.07	3.28	3.35	3.26	3.30	3.44	3.24	2.94	3.15	3.36	
	60歳以上	970	3.74	3.26	3.18	3.29	3.32	3.38	3.39	3.51	3.19	3.06	3.15	3.41	
F8: 地域	都市圏 (23区、指定都市、中核市)	3756	3.70	3.10	3.06	3.22	3.29	3.12	3.21	3.35	3.16	2.80	3.02	3.24	
	都市圏以外	5557	3.64	3.06	3.06	3.22	3.23	3.01	3.16	3.28	3.17	2.80	2.97	3.20	
F9: 規模 (在籍児数)	60名以下	3538	3.68	3.12	3.03	3.24	3.27	3.07	3.22	3.33	3.18	2.82	3.00	3.24	
	61名～120名以下	3421	3.65	3.06	3.09	3.24	3.24	3.05	3.17	3.31	3.18	2.80	3.01	3.23	
	121名～180名以下	1345	3.66	3.07	3.07	3.19	3.23	3.05	3.16	3.28	3.14	2.83	2.96	3.20	
	181名～240名以下	598	3.65	2.99	3.01	3.18	3.23	3.02	3.11	3.26	3.18	2.75	2.97	3.13	
	241名以上	413	3.64	2.90	3.05	3.11	3.29	3.02	3.05	3.30	3.09	2.70	2.88	3.08	
F11: 役職有無	マネジメント層(計)	3843	3.77	3.21	3.10	3.28	3.34	3.26	3.31	3.48	3.17	2.94	3.08	3.38	
	一般層(計)	5472	3.59	2.98	3.03	3.19	3.19	2.90	3.09	3.16	3.17	2.69	2.93	3.10	
F12: 担任の有無	担任を受け持っている	4343	3.61	2.94	2.99	3.18	3.24	2.90	3.09	3.16	3.18	2.63	2.83	3.09	
	担任を受け持っていない	4972	3.72	3.20	3.13	3.27	3.25	3.24	3.30	3.46	3.17	2.96	3.15	3.34	

続いて Q2 において、各業務の重要度を「F2：年齢」、「F8：地域」、「F9：規模（在籍児数）」、「F11：役職」、「F12：担任の有無」の 5 項目それぞれの属性ごとの平均点で示した結果を表 2-3 に示す。平均点については、重要だと感じる＝4 点、どちらかといえば重要だと感じる＝3 点、どちらかといえば重要だと感じない＝2 点、重要だと感じない＝1 点、にて各業務にて平均点を算出した。業務を担当していないサンプルは平均点の計上に加えていない。

年齢における相対的な傾向として、キャリアが浅い 24 歳までは「送迎バスへの添乗業務」、「昼食」、「壁面製作」、「備品の管理・設備点検」といった業務において平均点が高くなり、また 50 歳以上に着目すると各業務に対する平均点が高くなる傾向が確認された。一方で 25 歳～39 歳の各業務に対する全体的な平均点が低くなる結果となった。

加えて所属園における役割別の結果として、担任の受け持ち有無により「教室・園庭の整理整頓、清掃業務」、「備品の管理・設備点検」、「預かり保育」の平均点の差が確認される結果となった。

■Q2：各業務に対する重要度の各項目での平均点

表 2-3 Q2 における 5 項目でのクロス集計結果

		サン プル数	平均点													
			(遊 びの 時 間 含 む)	教 育 活 動	教 室 ・ 園 庭 の 整 理 整 頓、 清 掃 業 務	送 迎 バ ス へ の 添 乗 業 務	昼 食	保 護 者 対 応	・ 指 導 案 の 作 成	年 間 教 育 計 画	・ ク ラ ス だ よ り の 作 成 ・ 記 入	連 絡 帳 ・ 園 だ よ り	行 事 の 企 画 運 営	壁 面 製 作	備 品 の 管 理 ・ 設 備 点 検	預 か り 保 育
全体		9315	3.93	3.69	3.55	3.67	3.86	3.64	3.61	3.66	3.15	3.49	3.49	3.60		
F2: 年齢	～24歳	877	3.92	3.68	3.65	3.74	3.87	3.61	3.61	3.64	3.26	3.57	3.56	3.54		
	25～29歳	1026	3.92	3.65	3.54	3.66	3.84	3.53	3.51	3.60	3.16	3.44	3.44	3.43		
	30～34歳	804	3.93	3.66	3.54	3.68	3.83	3.53	3.53	3.58	3.11	3.45	3.45	3.50		
	35～39歳	1000	3.92	3.66	3.50	3.61	3.82	3.52	3.49	3.57	3.06	3.40	3.42	3.53		
	40～44歳	1075	3.94	3.69	3.54	3.70	3.86	3.63	3.59	3.64	3.11	3.44	3.49	3.59		
	45～49歳	1271	3.94	3.70	3.50	3.64	3.86	3.67	3.63	3.68	3.11	3.46	3.47	3.63		
	50～54歳	1235	3.94	3.74	3.58	3.67	3.88	3.73	3.69	3.71	3.16	3.53	3.48	3.68		
	55～59歳	1057	3.95	3.73	3.55	3.69	3.90	3.78	3.72	3.74	3.17	3.55	3.56	3.71		
	60歳以上	970	3.95	3.70	3.57	3.62	3.84	3.77	3.70	3.77	3.25	3.54	3.52	3.72		
F8: 地域	都市圏 (23区、指定都市、中核市)	3756	3.94	3.71	3.56	3.67	3.85	3.66	3.60	3.67	3.14	3.47	3.52	3.61		
	都市圏以外	5557	3.93	3.68	3.55	3.67	3.86	3.63	3.61	3.66	3.16	3.50	3.47	3.59		
F9: 規模 (在籍児数)	60名以下	3538	3.94	3.70	3.55	3.65	3.86	3.66	3.63	3.69	3.19	3.50	3.47	3.62		
	61名～120名以下	3421	3.94	3.70	3.56	3.68	3.86	3.62	3.59	3.64	3.11	3.48	3.49	3.60		
	121名～180名以下	1345	3.92	3.68	3.55	3.67	3.85	3.64	3.61	3.67	3.16	3.49	3.50	3.59		
	181名～240名以下	598	3.94	3.67	3.57	3.64	3.85	3.66	3.59	3.64	3.11	3.49	3.54	3.55		
	241名以上	413	3.91	3.64	3.55	3.65	3.83	3.63	3.52	3.62	3.12	3.43	3.49	3.46		
F11: 役職有無	マネジメント層(計)	3843	3.97	3.75	3.55	3.67	3.90	3.74	3.68	3.75	3.12	3.54	3.54	3.73		
	一般層(計)	5472	3.91	3.65	3.56	3.67	3.83	3.56	3.55	3.59	3.17	3.44	3.45	3.50		
F12: 担任の有無	担任を受け持っている	4343	3.92	3.63	3.52	3.65	3.83	3.55	3.54	3.58	3.15	3.41	3.39	3.49		
	担任を受け持っていない	4972	3.95	3.74	3.59	3.69	3.88	3.74	3.68	3.74	3.15	3.56	3.57	3.70		

続いて Q3 において、各業務の時間的な負担感を「F2：年齢」、「F7：幼稚園分類」、「F8：地域」、「F9：規模（在籍児数）」、「F11：役職有無」、「F12：担任の有無」の 6 項目それぞれの属性ごとの平均点で示した結果を表 2-4 に示す。負担感が大きいと回答する者が多ければ平均点が高くなる。なお、Q3 と Q4 の結果の園の分類については、「幼稚園」、「幼稚園型認定こども園」、「幼保連携型認定こども園・地方裁量型認定こども園」、「保育所型認定こども園」の 4 分類と「国公立園」、「私立園」での結果を示す。平均点の算出方法は、負担に感じる＝4 点、どちらかといえば負担に感じる＝3 点、どちらかといえば負担に感じない＝2 点、負担に感じない＝1 点、にて各業務にて平均点を算出した。業務を担当していないサンプルは平均点の計上に加えていない。

年齢における相対的な傾向として、25 歳以上 44 歳以下の各業務の平均点が高く、45 歳以上の特に 55 歳以上においては平均点が低くなることが確認できる。

また所属園の属性での相対的な傾向として、「教室・園庭の整理整頓、清掃業務」と「備品の管理・設備点検」をはじめ、国公立園の方が私立園より時間的な負担感を感じている傾向があることが確認された。

所属園における役割別の結果として、マネジメント層と一般層では、相対的に一般層の方が平均点が高い傾向にあるが、マネジメント層においては比較的「保護者対応」に時間的負担を感じていることが確認された。また担任の受け持ち有無で比較すると、「年間教育計画・指導案の作成」、「連絡帳・園だより・クラスだよりの作成・記入」、「行事の企画運営」といった業務で平均点の差が大きくなる傾向が確認された。

■Q3：各業務に対する時間的な負担感の各項目での平均点

表 2-4 Q3 における 6 項目でのクロス集計結果

		サン プル数	教室・園庭の整理整頓、 清掃業務	送迎バスへの添乗業務	昼食	保護者対応	年間教育計画 ・指導案の作成	・クラスだよりの作成・記入 連絡帳・園だよりの作成	行事の企画運営	壁面製作	備品の管理・設備点検	預かり保育	研修
			平均点										
全体		9315	2.33	2.28	1.76	2.35	2.60	2.53	2.45	2.29	2.35	2.40	2.25
F2: 年齢	～24歳	877	2.32	2.12	1.76	2.20	2.81	2.73	2.75	2.47	2.27	2.31	2.27
	25～29歳	1026	2.50	2.40	1.91	2.50	2.91	2.84	2.85	2.54	2.45	2.57	2.47
	30～34歳	804	2.52	2.39	1.88	2.46	2.87	2.78	2.74	2.39	2.50	2.61	2.46
	35～39歳	1000	2.40	2.41	1.81	2.44	2.79	2.70	2.64	2.33	2.42	2.53	2.40
	40～44歳	1075	2.34	2.25	1.74	2.35	2.67	2.58	2.47	2.30	2.44	2.48	2.28
	45～49歳	1271	2.28	2.33	1.69	2.34	2.53	2.40	2.32	2.12	2.31	2.36	2.20
	50～54歳	1235	2.29	2.21	1.71	2.32	2.42	2.34	2.25	2.15	2.34	2.37	2.17
	55～59歳	1057	2.26	2.22	1.68	2.27	2.24	2.22	2.14	2.02	2.27	2.20	2.06
	60歳以上	970	2.13	2.23	1.66	2.25	2.11	2.08	2.00	2.00	2.11	2.22	2.01
F7: 幼稚園分類①	幼稚園	3869	2.36	2.34	1.78	2.33	2.52	2.48	2.38	2.23	2.37	2.46	2.28
	幼稚園型認定こども園	1053	2.26	2.26	1.77	2.39	2.57	2.56	2.47	2.32	2.33	2.40	2.22
	幼保連携型認定こども園	3882	2.32	2.21	1.75	2.35	2.68	2.57	2.53	2.33	2.33	2.38	2.24
	地方裁量型認定こども園												
	保育所型認定こども園	511	2.33	2.37	1.75	2.30	2.78	2.59	2.48	2.31	2.27	2.26	2.24
F7: 幼稚園分類②	国公立園	4297	2.45	2.35	1.82	2.43	2.75	2.62	2.55	2.33	2.48	2.52	2.35
	私立園	5018	2.23	2.27	1.72	2.28	2.48	2.45	2.37	2.25	2.22	2.32	2.17
F8: 地域	都市圏 (23区、指定都市、中核市)	3756	2.29	2.31	1.75	2.33	2.55	2.50	2.42	2.30	2.36	2.35	2.20
	都市圏以外	5557	2.36	2.26	1.78	2.36	2.64	2.55	2.47	2.28	2.34	2.44	2.29
F9: 規模（在籍児数）	60名以下	3538	2.39	2.23	1.76	2.32	2.63	2.50	2.44	2.29	2.37	2.39	2.28
	61名～120名以下	3421	2.28	2.25	1.75	2.38	2.60	2.53	2.44	2.26	2.33	2.36	2.22
	121名～180名以下	1345	2.29	2.30	1.80	2.36	2.58	2.54	2.51	2.32	2.32	2.45	2.23
	181名～240名以下	598	2.34	2.40	1.74	2.36	2.57	2.64	2.49	2.34	2.30	2.53	2.31
	241名以上	413	2.39	2.38	1.85	2.32	2.52	2.59	2.48	2.35	2.36	2.55	2.29
F11: 役職の有無	マネジメント層(計)	3843	2.33	2.27	1.72	2.36	2.34	2.28	2.18	2.21	2.33	2.34	2.12
	一般層(計)	5472	2.34	2.29	1.79	2.34	2.80	2.70	2.69	2.33	2.36	2.45	2.36
F12: 担任の有無	担任を受け持っている	4343	2.45	2.37	1.78	2.24	2.84	2.76	2.75	2.40	2.45	2.58	2.44
	担任を受け持っていない	4972	2.22	2.19	1.76	2.37	2.31	2.23	2.15	2.10	2.24	2.24	2.08

続いて Q4 において、各業務の精神的な負担感業務を「F2：年齢」、「F7：幼稚園分類」、「F8：地域」、「F9：規模（在籍児数）」、「F11：役職有無」、「F12：担任の有無」の 6 項目それぞれの属性ごとの平均点で示した結果を表 2-5 に示す。平均点の算出方法は、負担に感じる＝4 点、どちらかといえば負担に感じる＝3 点、どちらかといえば負担に感じない＝2 点、負担に感じない＝1 点、にて各業務にて平均点を算出した。業務を担当していないサンプルは平均点の計上に加えていない。すなわち負担感が大きいと回答する者が多ければ平均点が高くなる。

年齢における相対的な傾向として、25 歳以上 39 歳以下の各業務の平均点が高く、55 歳以上においては平均点が低くなることが確認できる。

所属園の属性での相対的な傾向として、Q3 と同様に「教室・園庭の整理整頓、清掃業務」と「備品の管理・設備点検」をはじめ、国公立園の方が私立園より精神的な負担感を感じている傾向があることが確認された。また、回答者の所属する園の所在エリアで比較すると都市圏外に所在する園の回答サンプルの方が平均点が高くなり、都市圏に所在する園の回答サンプルの方が低くなる傾向が確認された。

所属園における役割別の結果として、マネジメント層と一般層で比較すると「備品の管理・設備点検」以外の業務においてマネジメント層の平均点が低く、一般層が高くなる傾向が確認された。担任の受け持ちの有無では、Q3 と同様に、担任を受け持つ場合に各業務に精神的負担感を大きく感じる傾向が確認された。

■Q4：各業務に対する精神的な負担感の各項目での平均点

表 2-5 Q4 における 6 項目のクロス集計結果

			(遊 びの 時 間 含 む)	教 室 ・ 園 庭 の 整 理 整 頓 、 清 掃 業 務	送 迎 バ ス へ の 添 乗 業 務	昼 食	保 護 者 対 応	・ 指 導 案 の 作 成	・ 年 間 教 育 計 画	・ ク ラ ス だ よ り の 作 成 ・ 記 入	連 絡 帳 ・ 園 だ よ り	行 事 の 企 画 運 営	壁 面 製 作	備 品 の 管 理 ・ 設 備 点 検	預 か り 保 育	研 修
		サン プル 数	平均点													
全体		9315	1.92	2.01	2.10	1.81	2.65	2.53	2.45	2.47	2.12	2.20	2.34	2.24		
F2: 年齢	～24歳	877	2.05	1.96	1.95	1.85	2.60	2.72	2.59	2.72	2.18	2.03	2.24	2.21		
	25～29歳	1026	2.13	2.08	2.07	1.93	2.85	2.77	2.68	2.83	2.28	2.20	2.38	2.40		
	30～34歳	804	2.11	2.13	2.19	1.94	2.82	2.74	2.66	2.74	2.23	2.27	2.46	2.40		
	35～39歳	1000	2.00	2.09	2.25	1.91	2.74	2.74	2.61	2.68	2.19	2.27	2.49	2.39		
	40～44歳	1075	1.89	2.02	2.09	1.76	2.68	2.64	2.51	2.49	2.13	2.24	2.40	2.29		
	45～49歳	1271	1.85	2.00	2.19	1.77	2.65	2.50	2.39	2.39	2.04	2.25	2.33	2.27		
	50～54歳	1235	1.82	1.99	2.10	1.74	2.61	2.35	2.32	2.29	2.01	2.25	2.35	2.20		
	55～59歳	1057	1.77	1.98	2.05	1.70	2.52	2.20	2.17	2.14	1.93	2.19	2.20	2.08		
60歳以上	970	1.69	1.86	2.03	1.67	2.36	2.05	2.06	2.00	1.91	2.02	2.16	1.94			
F7: 幼稚園分類①	幼稚園	3869	1.89	2.05	2.14	1.81	2.63	2.46	2.40	2.40	2.09	2.23	2.34	2.27		
	幼稚園型認定こども園	1053	1.89	1.94	2.09	1.80	2.67	2.48	2.49	2.46	2.13	2.17	2.33	2.20		
	幼保連携型認定こども園 地方裁量型認定こども園	3882	1.96	2.00	2.03	1.82	2.67	2.61	2.50	2.55	2.15	2.18	2.35	2.23		
	保育所型認定こども園	511	1.86	2.02	2.33	1.78	2.61	2.64	2.47	2.48	2.13	2.13	2.22	2.23		
F7: 幼稚園分類②	国公立園	4297	2.07	2.12	2.23	1.90	2.74	2.68	2.58	2.59	2.19	2.34	2.45	2.37		
	私立園	5018	1.78	1.92	2.06	1.74	2.57	2.40	2.35	2.36	2.04	2.06	2.25	2.13		
F8: 地域	都市圏 (23区、指定都市、中核市)	3756	1.87	1.97	2.09	1.78	2.62	2.47	2.41	2.42	2.10	2.18	2.29	2.17		
	都市圏以外	5557	1.95	2.04	2.10	1.84	2.67	2.58	2.48	2.50	2.13	2.21	2.37	2.29		
F9: 規模（在籍児数）	60名以下	3538	1.95	2.07	2.09	1.81	2.60	2.56	2.44	2.45	2.14	2.24	2.32	2.27		
	61名～120名以下	3421	1.92	1.97	2.07	1.80	2.67	2.54	2.46	2.48	2.10	2.17	2.31	2.22		
	121名～180名以下	1345	1.90	1.96	2.12	1.85	2.72	2.49	2.44	2.49	2.12	2.16	2.38	2.19		
	181名～240名以下	598	1.85	1.99	2.13	1.81	2.65	2.49	2.52	2.51	2.14	2.16	2.43	2.29		
	241名以上	413	1.84	2.08	2.12	1.83	2.63	2.43	2.49	2.47	2.10	2.20	2.43	2.26		
F11: 役職有無	マネジメント層(計)	3843	1.77	1.99	2.08	1.74	2.64	2.28	2.24	2.22	2.06	2.21	2.30	2.12		
	一般層(計)	5472	2.01	2.03	2.11	1.85	2.65	2.72	2.60	2.69	2.15	2.19	2.37	2.34		
F12: 担任の有無	担任を受け持っている	4343	2.09	2.12	2.15	1.92	2.75	2.77	2.67	2.76	2.23	2.28	2.47	2.41		
	担任を受け持っていない	4972	1.74	1.91	2.04	1.69	2.56	2.24	2.18	2.18	1.93	2.12	2.21	2.08		

Q5において、「F2：年齢」、「F7：幼稚園分類」、「F8：地域」、「F9：規模（在籍児数）」、「F11：役職有無」、「F12：担任の有無」の6項目での平均的な出勤時刻を7時台、8時台、9時台、その他の時間帯で比較した結果を表2-6に示す。7時台、8時台、9時台の各時間帯において割合が多い上位3項目を赤字の太字、少ない下位3項目を青字の太字で示しており、表2-7（16時台、17時台、18時台、19時台）、表2-9も同様の規則に沿って示す。

表2-6より、所属園の属性での傾向として、幼稚園に所属する回答者と3歳以上の在籍児童数が181名以上の大型の園においては出勤時刻が比較的早いことが確認された。

また、平均的な退勤時刻を16時台、17時台、18時台、19時台、その他の時間帯で比較した結果を表2-7に示す。所属園の属性での傾向として、幼稚園に所属する回答者は18時台、19時台に退勤すると回答した者が比較的多かった。

次に6項目での平均的な休憩時間と勤務時間の集計結果を表2-8に示す。平均時間の赤掛けの箇所は全体集計の平均以上の時間となっている項目で、青掛けの箇所は全体集計の平均未満の時間の項目となっている。また、各平均時間の上位・下位3項目をそれぞれ赤太字、青太字にて示しており、表2-10も同様の規則に沿って記載する。年齢における傾向として29歳以下は平均休憩時間が短く、平均勤務時間が長いことが確認され、他方で60歳以上は平均休憩時間が長く、平均勤務時間も短い結果となった。また所属園の属性での傾向として、幼稚園の平均勤務時間が比較的長いことが確認された。また、毎日の平均的な休憩時間（35.4分）を2つ（「平均時間未満」、「平均時間以上」）、平均的な毎日の勤務時間（「8時間未満」、「8時間」、「8時間以上」）を3つに分け、6項目で比較した結果を表2-9に示す。年齢における傾向として29歳以下は他の年齢層と比較して休憩時間が平均時間よりも短い割合が多いこと、更に勤務時間は8時間未満の割合が少なく、8時間10分以上の割合が多いことが確認された。また所属園の属性での傾向として、幼稚園は8時間10分以上勤務されている回答者の割合が多いという結果になった。また、担任を受け持っている回答者の休憩時間は、担任を受け持っていない回答者と比較して平均時間未満の割合が多いことが確認された。

続けてQ3において時間的な負担感が多い業務であった「連絡帳・園だより・クラスだよりの作成・記入」、「行事の企画運営」、「年間教育計画・指導案の作成」の平均的な対応時間を6項目で比較した結果を表2-10に示す。「連絡帳・園だより・クラスだよりの作成・記入」において、3歳以上の在籍児童数が181名以上の大型の園においては対応時間が長くなることが確認された。また、担任を受け持っていない回答者の対応時間は比較的短いことが確認された。

■ Q5 : 出勤時刻

表 2-6 出勤時刻における 6 項目でのクロス集計結果

		サンプル数	7時台	8時台	9時台	その他の時間帯
全体		9315	26.9	63.0	7.5	2.6
F2: 年齢	～24歳	877	33.5	59.2	5.6	1.7
	25～29歳	1026	31.6	62.6	4.4	1.5
	30～34歳	804	24.3	65.5	8.2	2.0
	35～39歳	1000	18.6	68.2	11.7	1.5
	40～44歳	1075	23.8	64.7	9.6	1.9
	45～49歳	1271	26.8	62.4	8.7	2.1
	50～54歳	1235	26.6	63.2	7.8	2.5
	55～59歳	1057	28.9	61.9	5.0	4.3
	60歳以上	970	28.2	59.5	6.3	6.0
F7: 幼稚園分類①	幼稚園	3869	39.7	54.8	3.3	2.2
	幼稚園型認定こども園	1053	28.0	59.6	8.5	3.8
	幼保連携型認定こども園	3882	15.6	71.5	10.3	2.6
	地方裁量型認定こども園					
	保育所型認定こども園	511	12.3	67.5	16.8	3.3
F7: 幼稚園分類②	国公立園	4297	29.0	65.0	3.6	2.4
	私立園	5018	25.0	61.4	10.9	2.7
F8: 地域	都市圏（23区、指定都市、中核市）	3756	28.4	58.6	9.5	3.6
	都市圏以外	5557	25.8	66.0	6.2	1.9
F9: 規模（在籍児数）	60名以下	3538	26.5	64.8	6.2	2.6
	61名～120名以下	3421	22.5	65.9	8.9	2.7
	121名～180名以下	1345	29.6	60.9	7.9	1.6
	181名～240名以下	598	39.6	48.7	7.7	4.0
	241名以上	413	39.2	51.6	6.5	2.7
F11: 役職有無	マネジメント層(計)	3843	29.5	64.0	4.9	1.6
	一般層(計)	5472	25.0	62.4	9.4	3.3
F12: 担任の有無	担任を受け持っている	4343	29.8	63.9	5.4	0.9
	担任を受け持っていない	4972	24.3	62.3	9.4	4.1

■ Q5：退勤時刻

表 2-7 退勤時刻における 6 項目でのクロス集計結果

		サンプル数	16時台	17時台	18時台	19時台	その他の時間帯
全体		9315	8.0	44.5	30.8	9.8	6.8
F2: 年齢	～24歳	877	4.8	46.4	36.0	10.9	1.8
	25～29歳	1026	5.0	47.5	33.0	12.2	2.3
	30～34歳	804	10.8	48.1	27.7	8.8	4.5
	35～39歳	1000	9.5	48.7	26.8	6.2	8.8
	40～44歳	1075	9.0	42.9	29.1	9.1	9.9
	45～49歳	1271	6.8	43.3	31.8	9.4	8.7
	50～54歳	1235	7.1	40.3	33.2	11.3	8.1
	55～59歳	1057	7.8	39.7	33.4	12.7	6.4
	60歳以上	970	12.0	46.5	25.4	7.4	8.8
F7: 幼稚園分類①	幼稚園	3869	7.5	39.7	34.6	10.9	7.4
	幼稚園型認定こども園	1053	7.5	46.3	29.1	8.4	8.7
	幼保連携型認定こども園	3882	8.4	47.9	28.5	9.6	5.5
	地方裁量型認定こども園		8.4	47.9	28.5	9.6	5.5
	保育所型認定こども園	511	9.4	51.7	24.1	6.8	8.0
F7: 幼稚園分類②	国公立園	4297	7.3	38.9	33.4	13.1	7.3
	私立園	5018	8.6	49.4	28.7	7.1	6.3
F8: 地域	都市圏（23区、指定都市、中核市）	3756	7.8	40.9	31.7	11.7	8.0
	都市圏以外	5557	8.2	47.0	30.3	8.6	6.0
F9: 規模（在籍児数）	60名以下	3538	8.1	44.5	31.1	9.7	6.6
	61名～120名以下	3421	8.8	44.7	30.0	9.8	6.7
	121名～180名以下	1345	5.7	47.7	29.9	10.0	6.7
	181名～240名以下	598	8.0	39.1	32.9	11.4	8.5
	241名以上	413	8.2	40.7	35.1	9.2	6.8
F11: 役職有無	マネジメント層(計)	3843	6.0	43.4	34.5	12.7	3.5
	一般層(計)	5472	9.4	45.4	28.3	7.9	9.1
F12: 担任の有無	担任を受け持っている	4343	6.9	47.3	33.0	9.5	3.2
	担任を受け持っていない	4972	8.9	42.1	28.9	10.1	9.9

■ Q5 : 休憩時間と勤務時間

表 2-8 平均的な休憩時間と勤務時間における 6 項目でのクロス集計結果

			休憩時間	勤務時間
		サンプル数	平均時間(分)	
全体		9315	35.4	529.7
F2: 年齢	～24歳	877	28.9	553.1
	25～29歳	1026	29.6	556.0
	30～34歳	804	31.1	529.0
	35～39歳	1000	33.3	515.8
	40～44歳	1075	34.5	519.0
	45～49歳	1271	37.4	524.6
	50～54歳	1235	38.0	534.7
	55～59歳	1057	39.0	532.6
	60歳以上	970	44.4	504.9
F7: 幼稚園分類①	幼稚園	3869	31.3	547.7
	幼稚園型認定こども園	1053	32.4	526.6
	幼保連携型認定こども園	3882	39.7	517.3
	地方裁量型認定こども園			
	保育所型認定こども園	511	40.4	494.3
F7: 幼稚園分類②	国公立園	4297	34.9	539.7
	私立園	5018	35.8	521.2
F8: 地域	都市圏（23区、指定都市、中核市）	3756	35.3	529.1
	都市圏以外	5557	35.4	530.1
F9: 規模（在籍児数）	60名以下	3538	36.7	529.0
	61名～120名以下	3421	36.6	523.4
	121名～180名以下	1345	32.0	539.1
	181名～240名以下	598	30.4	543.4
	241名以上	413	31.9	537.8
F11: 役職有無	マネジメント層(計)	3843	41.1	547.7
	一般層(計)	5472	31.4	517.1
F12: 担任の有無	担任を受け持っている	4343	30.0	546.2
	担任を受け持っていない	4972	40.1	515.3

■Q5：休憩時間と勤務時間

表 2-9 時間別の休憩時間・勤務時間における 6 項目でのクロス集計結果

	サンプル数	休憩平均時間別		勤務時間		
		平均時間 (35.4分)未 満	平均時間 (35.4分)以 上	8時間未満	8時間	8時間10分 以上
全体	9315	51.1	48.9	18.3	12.9	68.9
F2: 年齢						
～24歳	877	59.2	40.8	9.0	12.8	78.2
25～29歳	1026	59.7	40.3	9.0	11.5	79.5
30～34歳	804	57.5	42.5	18.0	12.1	69.9
35～39歳	1000	53.1	46.9	22.3	13.1	64.6
40～44歳	1075	54.0	46.0	22.5	13.3	64.2
45～49歳	1271	49.8	50.2	19.9	12.1	68.0
50～54歳	1235	47.9	52.1	18.5	13.2	68.3
55～59歳	1057	46.8	53.2	19.6	11.7	68.7
60歳以上	970	34.3	65.7	23.9	16.0	60.1
F7: 幼稚園分類①						
幼稚園	3869	59.0	41.0	15.2	6.2	78.7
幼稚園型認定こども園	1053	55.0	45.0	17.8	13.0	69.2
幼保連携型認定こども園	3882	43.2	56.8	20.2	18.7	61.2
地方裁量型認定こども園						
保育所型認定こども園	511	43.1	56.9	28.2	19.2	52.6
F7: 幼稚園分類②						
国公立園	4297	52.7	47.3	21.0	5.4	73.7
私立園	5018	49.7	50.3	16.0	19.3	64.8
F8: 地域						
都市圏（23区、指定都市、中核市）	3756	50.1	49.9	19.8	13.3	66.9
都市圏以外	5557	51.7	48.3	17.2	12.5	70.2
F9: 規模（在籍児数）						
60名以下	3538	49.5	50.5	19.2	11.7	69.1
61名～120名以下	3421	48.2	51.8	20.1	14.3	65.6
121名～180名以下	1345	56.7	43.3	14.1	12.3	73.5
181名～240名以下	598	60.9	39.1	13.9	11.7	74.4
241名以上	413	56.2	43.8	15.5	13.8	70.7
F11: 役職有無						
マネジメント層（計）	3843	42.7	57.3	11.1	14.3	74.6
一般層（計）	5472	57.0	43.0	23.3	11.9	64.9
F12: 担任の有無						
担任を受け持っている	4343	60.3	39.7	12.3	10.1	77.6
担任を受け持っていない	4972	43.0	57.0	23.5	15.2	61.3

■Q5：「連絡帳・園だより・クラスだよりの作成・記入」、「行事の企画運営」、「年間教育計画・指導案の作成」の平均的な対応時間

表 2-10 各業務の平均的な対応時間における 6 項目でのクロス集計結果

			連絡帳・園だより・クラスだよりの作成・記入	行事の企画運営	年間教育計画・指導案の作成
		サンプル数	平均時間(分) ※毎日の業務	平均時間(分) ※毎日ではない業務	
全体		9315	41.4	310.3	212.7
F2: 年齢	～24歳	877	47.0	345.6	228.1
	25～29歳	1026	43.2	302.5	206.1
	30～34歳	804	39.1	294.8	184.5
	35～39歳	1000	40.1	283.6	206.2
	40～44歳	1075	41.0	316.6	235.0
	45～49歳	1271	40.7	300.4	206.6
	50～54歳	1235	40.0	330.2	207.6
	55～59歳	1057	40.3	322.4	243.2
	60歳以上	970	39.7	294.4	194.4
F7: 幼稚園分類①	幼稚園	3869	42.1	323.5	218.2
	幼稚園型認定こども園	1053	43.4	293.7	198.7
	幼保連携型認定こども園	3882	40.4	304.5	212.5
	地方裁量型認定こども園				
	保育所型認定こども園	511	39.5	276.7	195.6
F7: 幼稚園分類②	国公立園	4297	41.4	280.4	228.5
	私立園	5018	41.3	337.7	197.7
F8: 地域	都市圏（23区、指定都市、中核市）	3756	41.0	318.8	215.6
	都市圏以外	5557	41.6	304.6	210.5
F9: 規模（在籍児数）	60名以下	3538	41.4	300.9	222.8
	61名～120名以下	3421	40.1	294.9	199.5
	121名～180名以下	1345	40.8	331.7	222.7
	181名～240名以下	598	47.3	334.2	204.2
	241名以上	413	45.6	428.0	210.6
F11: 役職有無	マネジメント層(計)	3843	40.0	344.1	212.9
	一般層(計)	5472	42.3	279.3	212.5
F12: 担任の有無	担任を受け持っている	4343	43.1	277.5	217.4
	担任を受け持っていない	4972	38.8	343.0	206.4

Q8において、各取り組みを所属園の属性情報である「F7：園分類」、「F8：園の所在するエリア」、「F9：3歳以上の在籍児童数」の3項目で取り組みを「行っている」と回答があったそれぞれの結果を割合にて表 2-11 にて示す。全体の平均割合を上回る場合は赤字の太文字で記載しており、表 2-12 も同様の規則で示す。

表 2-11 より、全体平均の割合と比較して多く取り組んでいるものとして「事務職員の活用」は3歳以上の在籍児童数が121名以上の中型・大型の園で、「各教室に Wi-Fi が繋がっている」、「各個人で仕事用のタブレットまたはスマートフォンがある」といった取り組みは、大型の園で比較的多く導入されていることが確認された。また、「勤務のシフト制」や「休憩時間を確保するための園としての工夫」といった取り組みは、幼稚園と比較して認定こども園で多く実施されている。また、国公立園と私立園を比較して差がみられる取り組みとして、国公立園では「地域人材の活用」が、私立園では「各教室に Wi-Fi が繋がっている」「事務職員の活用」「勤務のシフト制」等が多く実施されているという結果となった。

また、勤務時間が回答者における平均を上回る場合と下回る場合に分け、回答者の所属する園が業務負担軽減のための各取り組みを実施しているかどうかを割合で表したものを表 2-12 に示す。「勤務のシフト制」や「休憩時間を確保するための園としての工夫」での結果に着目すると平均勤務時間が短いサンプルで多く取り組まれており、勤務時間削減に効果があることが示唆される結果となった。一方で、「ICT の活用」、「各教室に Wi-Fi が繋がっている」、「各教室に1台以上タブレット端末がある」、「各個人で仕事用のタブレットまたはスマートフォンがある」といった ICT 関連方策では勤務時間削減に対する相関関係が確認されない結果となった。

また、各取り組みを「行っている」と回答があったサンプルのうち、「業務負担が軽減されている」と感じる割合の結果を表 2-13 にて示す。全体の相対的な傾向として、多くの取り組みにおいて負担軽減を半数以上の回答者が実感できていることが確認された。クロス集計の結果から、「ICT の活用」をはじめとする ICT に関連する取り組みや「業務のアウトソーシング」は園の規模が大きくなるほど負担が軽減されていると感じる割合が多いことがわかる。

■Q8-1：教職員の業務負担軽減を図るための取り組み状況

表 2-11 教職員の業務負担軽減を図るための取り組みにおける 3 項目でのクロス集計結果

		ICTの活用	業務のアウトソーシング	事務職員の活用	地域人材の活用	各教室にWi-Fiが繋がっている	
		サンプル数	行っている	行っている	行っている	行っている	
全体		9315	56.6	15.3	54.8	30.5	46.4
F7: 幼稚園分類①	幼稚園	3869	52.0	13.4	46.5	32.4	33.9
	幼稚園型認定こども園	1053	58.4	17.1	59.0	23.9	51.9
	幼保連携型認定こども園	3882	60.4	17.0	63.0	31.2	55.2
	地方裁量型認定こども園	511	59.7	12.3	47.0	23.7	62.6
	保育所型認定こども園	511	59.7	12.3	47.0	23.7	62.6
F7: 幼稚園分類②	国公立園	4297	51.6	9.6	41.9	37.3	29.8
	私立園	5018	60.9	20.1	65.9	24.6	60.6
F8: 地域	都市圏（23区、指定都市、中核市）	3756	58.3	18.3	61.4	27.6	47.0
	都市圏以外	5557	55.5	13.2	50.4	32.4	45.9
F9: 規模（在籍児数）	60名以下	3538	53.5	11.7	40.4	34.9	37.5
	61名～120名以下	3421	58.1	15.9	59.9	29.3	50.9
	121名～180名以下	1345	61.0	18.6	67.3	27.6	53.2
	181名～240名以下	598	53.0	18.1	71.7	23.4	48.2
	241名以上	413	61.7	25.7	71.7	22.0	60.0
			各教室に1台以上タブレット端末がある	各個人で仕事用のタブレットまたはスマートフォンがある	勤務のシフト制	休憩時間を確保するための園としての工夫	短時間勤務制度
		サンプル数	行っている	行っている	行っている	行っている	行っている
全体		9315	38.6	23.0	64.3	47.5	45.1
F7: 幼稚園分類①	幼稚園	3869	27.6	25.9	32.5	34.7	29.9
	幼稚園型認定こども園	1053	36.8	27.0	76.3	42.3	45.1
	幼保連携型認定こども園	3882	47.7	19.1	89.7	60.3	58.9
	地方裁量型認定こども園	511	55.6	21.7	87.7	57.9	56.0
	保育所型認定こども園	511	55.6	21.7	87.7	57.9	56.0
F7: 幼稚園分類②	国公立園	4297	32.3	21.9	53.5	48.1	37.0
	私立園	5018	43.9	23.9	73.5	47.0	52.1
F8: 地域	都市圏（23区、指定都市、中核市）	3756	37.1	24.4	62.4	48.7	44.9
	都市圏以外	5557	39.5	22.0	65.6	46.7	45.3
F9: 規模（在籍児数）	60名以下	3538	30.9	21.2	55.4	48.8	37.2
	61名～120名以下	3421	42.8	21.7	73.7	50.7	50.3
	121名～180名以下	1345	43.7	24.5	67.2	44.0	50.6
	181名～240名以下	598	41.3	26.9	61.9	35.5	48.2
	241名以上	413	48.2	37.8	56.2	38.5	47.5

■Q8-1：教職員の業務負担軽減を図るための取り組み状況

表 2-12 教職員の業務負担軽減を図るための取り組みにおける
平均勤務時間でのクロス集計結果

		ICTの活用	業務のアウトソーシング	事務職員の活用	地域人材の活用	各教室にWi-Fiが繋がっている	各教室に1台以上タブレット端末がある	各個人で仕事のタブレットまたはスマートフォンがある	勤務のシフト制	休憩時間を確保するための工夫	短時間勤務制度
	サンプル数	行っている	行っている	行っている	行っている	行っている	行っている	行っている	行っている	行っている	行っている
全体	9315	56.6	15.3	54.8	30.5	46.4	38.6	23.0	64.3	47.5	45.1
平均時間（8時間50分）以上	4905	58.9	14.3	53.2	31.4	43.9	37.2	25.0	56.1	38.7	39.7
平均時間（8時間50分）未満	4410	54.0	16.4	56.7	29.4	49.2	40.1	20.7	73.4	57.3	51.2

■Q8-3：教職員の業務負担軽減を図るための取り組み評価

※Q8-1で行っているものについての評価

表 2-13 3項目でのQ8の取り組みの効果を感ずる割合を示したクロス集計結果

		ICTの活用	業務のアウトソーシング	事務職員の活用	地域人材の活用	各教室にWi-Fiが繋がっている
		感じる	感じる	感じる	感じる	感じる
全体		56.5	65.6	75.6	54.5	68.8
F7: 幼稚園分類①	幼稚園	51.8	64.9	76.3	51.5	61.2
	幼稚園型認定こども園	54.6	68.9	72.1	48.8	68.7
	幼保連携型認定こども園	60.7	66.3	76.6	58.8	72.6
	地方裁量型認定こども園					
	保育所型認定こども園	58.4	55.6	67.9	54.5	74.4
F7: 幼稚園分類②	国公立園	42.9	54.6	76.9	48.6	56.4
	私立園	66.3	70.1	74.8	62.1	73.9
F8: 地域	都市圏（23区、指定都市、中核市）	60.4	67.1	75.7	55.6	70.7
	都市圏以外	53.7	64.3	75.4	53.8	67.4
F9: 規模（在籍児数）	60名以下	49.2	59.0	73.1	50.9	64.8
	61名～120名以下	59.0	66.9	76.2	56.9	71.0
	121名～180名以下	61.1	69.6	77.2	59.3	69.3
	181名～240名以下	65.3	67.6	74.6	50.0	66.3
	241名以上	64.7	73.6	79.1	63.7	75.4
		各教室に1台以上タブレット端末がある	各個人で仕専用のタブレットまたはスマートフォンがある	勤務のシフト制	休憩時間を確保するための園としての工夫	短時間勤務制度
		感じる	感じる	感じる	感じる	感じる
全体		68.3	70.1	53.2	60.5	55.1
F7: 幼稚園分類①	幼稚園	60.2	64.2	48.2	56.8	51.6
	幼稚園型認定こども園	67.8	75.7	54.9	58.7	58.1
	幼保連携型認定こども園	72.1	75.3	54.9	62.4	56.5
	地方裁量型認定こども園					
	保育所型認定こども園	74.3	73.0	51.8	64.9	53.5
F7: 幼稚園分類②	国公立園	55.4	58.2	45.1	56.6	44.7
	私立園	76.4	79.4	58.3	63.9	61.5
F8: 地域	都市圏（23区、指定都市、中核市）	69.5	73.3	54.1	61.3	54.3
	都市圏以外	67.5	67.6	52.7	59.9	55.7
F9: 規模（在籍児数）	60名以下	62.4	63.6	51.9	60.0	53.4
	61名～120名以下	71.2	72.7	53.8	62.2	56.8
	121名～180名以下	67.7	73.6	53.7	57.8	54.2
	181名～240名以下	71.7	72.1	52.7	53.8	50.7
	241名以上	76.4	78.8	57.8	65.4	62.2

Q10において、各取り組みを所属園の属性情報である「F7：幼稚園分類」、「F8：地域」、「F9：規模（在籍児数）」の3項目で取り組みを「行っている」と回答があったそれぞれの結果を割合にて表 2-14 にて示す。全体の平均割合を上回る場合は赤字の太文字で記載しており、表 2-15 も同様な規則で示す。

全体平均の割合と比較して多く取り組んでいるものとして「入職事前研修」は3歳以上の在籍児童数が121名以上の中型・大型の園で、「新たな教諭が入職するための受け入れ態勢（アルバイト・体験会等）」と「結婚・出産等を機に退職した方への職場復帰支援」は3歳以上の在籍児童数が241名以上の大型の園で多く取り組まれていることがわかった。また、「キャリアアップの制度」は施設類型別では認定こども園、設置者別では私立園において多く取り組まれていることが確認された。

また、各取り組みを「行っている」と回答があったサンプルのうち、「勤務環境が改善されている」と感じる割合を示した結果を表 2-15 にて示す。全体の相対的な傾向として、「法定研修」と「法定外研修」以外の取り組みにおいて勤務環境改善を半数以上の回答者が実感できていることが確認された。

■Q10-1：業務負担軽減以外に教職員の勤務環境を改善するための取り組み状況

表 2-14 業務負担軽減以外の教職員の勤務環境を改善するための取り組みにおける
3項目でのクロス集計結果

		法定研修	法定外研修	入職事前研修	職場でのコミュニケーションが円滑になるような園としての工夫	有給休暇をとりやすくするための取り組み	長期休暇をとりやすくするための取り組み
		サンプル数	行っている	行っている	行っている	行っている	行っている
全体		9315	44.7	39.1	44.5	55.4	41.4
F7: 幼稚園分類①	幼稚園	3869	43.0	37.6	41.8	58.2	45.5
	幼稚園型認定こども園	1053	42.8	36.3	49.6	55.8	42.8
	幼保連携型認定こども園	3882	47.3	41.8	46.6	53.3	37.3
	地方裁量型認定こども園	511	41.7	35.6	39.3	48.5	37.8
F7: 幼稚園分類②	国公立園	4297	43.9	37.7	32.6	56.1	40.5
	私立園	5018	45.4	40.2	54.7	54.7	42.1
F8: 地域	都市圏（23区、指定都市、中核市）	3756	47.4	41.9	50.9	58.8	46.2
	都市圏以外	5557	42.8	37.1	40.2	53.0	38.1
F9: 規模（在籍児数）	60名以下	3538	46.6	39.8	35.2	58.8	43.6
	61名～120名以下	3421	45.4	40.7	44.8	54.4	38.7
	121名～180名以下	1345	42.5	37.8	55.5	51.3	42.2
	181名～240名以下	598	38.0	30.1	59.0	49.3	39.0
	241名以上	413	39.2	36.1	64.6	55.2	44.8
			住宅手当	通勤手当	新たな教諭が入職するための受け入れ態勢（アルバイト・体験会等）	結婚・出産等を機に退職した方への職場復帰支援	キャリアアップの制度
		サンプル数	行っている	行っている	行っている	行っている	行っている
全体		9315	53.8	90.0	35.6	40.1	50.1
F7: 幼稚園分類①	幼稚園	3869	53.8	88.7	27.4	35.6	32.3
	幼稚園型認定こども園	1053	45.9	88.0	42.3	42.5	56.1
	幼保連携型認定こども園	3882	55.8	91.8	42.0	44.2	63.4
	地方裁量型認定こども園	511	54.0	89.4	35.6	38.9	72.0
F7: 幼稚園分類②	国公立園	4297	60.1	87.5	20.7	29.3	35.0
	私立園	5018	48.3	92.0	48.5	49.4	63.1
F8: 地域	都市圏（23区、指定都市、中核市）	3756	58.3	90.1	41.0	45.1	52.7
	都市圏以外	5557	50.7	89.8	32.0	36.8	48.4
F9: 規模（在籍児数）	60名以下	3538	56.7	88.7	26.2	33.9	47.1
	61名～120名以下	3421	53.4	90.3	37.7	41.2	54.7
	121名～180名以下	1345	49.9	91.2	42.8	45.7	48.3
	181名～240名以下	598	48.0	89.6	47.2	45.0	46.7
	241名以上	413	52.5	94.2	59.1	59.3	49.4

■Q10-3：業務負担軽減以外に教職員の勤務環境を改善するための取り組み評価

※Q10-1で行っているものについての評価

表 2-15 3項目でのQ10の取り組みの効果を感じる割合を示したクロス集計結果

		法定研修	法定外研修	入職事前研修	職場でのコミュニケーションが円滑になるような園としての工夫	有給休暇をとりやすくするための取り組み	長期休暇をとりやすくするための取り組み
		感じる	感じる	感じる	感じる	感じる	感じる
全体		43.3	43.2	52.1	75.4	79.5	78.3
F7: 幼稚園分類①	幼稚園	38.7	39.0	48.2	78.1	79.8	78.7
	幼稚園型認定こども園	45.9	44.0	55.2	71.9	78.2	74.5
	幼保連携型認定こども園	46.4	46.5	54.6	73.6	79.6	79.0
	地方裁量型認定こども園						
	保育所型認定こども園	46.9	45.6	52.2	74.6	78.9	77.7
F7: 幼稚園分類②	国公立園	34.7	35.1	38.9	76.3	77.3	76.2
	私立園	50.4	49.7	58.8	74.6	81.3	79.9
F8: 地域	都市圏（23区、指定都市、中核市）	45.8	44.3	55.6	77.2	79.7	78.5
	都市圏以外	41.4	42.3	49.2	74.1	79.3	78.1
F9: 規模（在籍児数）	60名以下	40.7	40.8	46.5	76.2	79.8	78.9
	61名～120名以下	44.6	45.3	53.3	75.5	78.7	78.8
	121名～180名以下	44.7	44.2	57.2	76.2	80.4	76.4
	181名～240名以下	43.2	41.7	49.6	72.2	77.5	76.4
	241名以上	53.1	44.3	60.3	69.3	83.2	77.3
		住宅手当	通勤手当	新たな教諭が入職するための受け入れ態勢（アルバイト・体験会等）	結婚・出産等を機に退職した方への職場復帰支援	カウンセリングを受ける機会	キャリアアップの制度
		感じる	感じる	感じる	感じる	感じる	感じる
全体		62.5	64.5	63.6	71.3	55.1	65.0
F7: 幼稚園分類①	幼稚園	58.1	61.6	57.7	67.7	50.5	59.4
	幼稚園型認定こども園	64.0	66.2	67.0	71.0	61.0	66.0
	幼保連携型認定こども園						
	地方裁量型認定こども園	65.8	67.0	66.4	73.8	58.6	67.7
	保育所型認定こども園	67.0	63.9	65.4	75.9	60.7	65.2
F7: 幼稚園分類②	国公立園	57.0	58.9	51.4	61.4	48.7	51.9
	私立園	68.4	69.1	68.1	76.4	66.3	71.3
F8: 地域	都市圏（23区、指定都市、中核市）	64.7	67.1	65.6	71.5	55.5	65.9
	都市圏以外	60.8	62.8	61.9	71.2	54.9	64.4
F9: 規模（在籍児数）	60名以下	60.7	63.2	60.1	69.2	51.8	63.2
	61名～120名以下	63.7	65.3	65.4	73.2	56.3	66.0
	121名～180名以下	63.2	65.9	62.8	69.9	61.4	65.8
	181名～240名以下	62.0	63.1	63.1	71.0	57.7	64.5
	241名以上	67.3	66.8	70.1	74.7	60.4	69.6

Q12 において、ICT 活用状況を所属園の属性情報である「F7：幼稚園分類」、「F8：地域」、「F9：規模（在籍児数）」の3項目で「活用している」と回答があったそれぞれの結果を割合にて表 2-16 にて示す。全体の平均割合を上回る場合は赤字の太文字で記載する。

園の属性に関わらず ICT が導入されている取り組みとして、「園からの連絡、予定の通知」、「年間教育計画・指導案の作成」、「連絡帳・園だより・クラスだよりの作成」等が挙げられる。他方で、「登降園管理」、「保育時間管理」、「出欠管理」は差が見られ、施設類型別では認定こども園において、設置者別では私立において、また3歳以上の児童数が121名以上の中型・大型の園にて多く活用されていることが明らかとなった。

■Q12：ICT 活用状況

表 2-16 ICT 活用状況の3項目でのクロス集計結果

		サンプル数	教育活動 (遊びの時 間含む)	教室・園庭 の整理整 頓、点検及 び清掃業務	登降園管理	送迎バスの 添乗業務(こ どもの置き 去り防止等)	昼食(アレル ギー管理 等)	保護者対応	年間教育計 画・指導案 の作成
			活用してい る	活用してい る	活用してい る	活用してい る	活用してい る	活用してい る	活用してい る
全体		9315	30.1	6.6	52.9	22.6	14.4	37.4	46.1
F7: 幼稚園分類①	幼稚園	3869	31.4	4.9	36.1	22.5	10.4	33.4	43.5
	幼稚園型認定こども園	1053	31.1	8.4	63.3	40.1	15.1	38.7	43.3
	幼保連携型認定こども園	3882	29.0	7.8	64.8	20.3	18.0	39.9	48.4
	地方裁量型認定こども園	511	28.0	6.7	69.1	5.7	15.9	46.4	53.4
	保育所型認定こども園	511	28.0	6.7	69.1	5.7	15.9	46.4	53.4
F7: 幼稚園分類②	国公立園	4297	30.3	4.7	37.7	5.1	8.7	30.5	40.8
	私立園	5018	30.0	8.2	66.0	37.7	19.3	43.4	50.6
F8: 地域	都市圏 (23区、指定都市、中核市)	3756	31.4	6.5	56.0	25.4	15.7	40.7	48.0
	都市圏以外	5557	29.3	6.7	50.9	20.8	13.6	35.2	44.8
F9: 規模 (在籍児数)	60名以下	3538	30.7	5.6	39.5	10.1	11.1	34.2	45.6
	61名～120名以下	3421	29.0	6.9	57.1	20.4	15.5	38.4	45.9
	121名～180名以下	1345	29.5	6.9	65.1	37.5	16.7	42.1	46.9
	181名～240名以下	598	28.4	8.0	68.9	48.7	20.1	37.8	45.5
	241名以上	413	38.7	9.2	70.7	62.0	18.2	40.9	50.6

		サンプル数	連絡帳・園 だより・クラ スだよりの 作成	行事の企画 運営	壁面製作	日々の学習 準備	備品の管 理・設備点 検	預かり保育	研修
			活用してい る	活用してい る	活用してい る	活用してい る	活用してい る	活用してい る	活用してい る
全体		9315	49.5	30.0	11.1	18.5	14.5	21.7	50.2
F7: 幼稚園分類①	幼稚園	3869	49.1	32.3	12.0	20.2	16.8	22.1	50.2
	幼稚園型認定こども園	1053	48.9	31.1	10.6	20.5	13.9	31.8	53.0
	幼保連携型認定こども園	3882	49.1	27.5	10.4	16.8	12.8	19.8	49.8
	地方裁量型認定こども園	511	56.4	28.4	9.8	14.7	10.6	12.1	47.4
	保育所型認定こども園	511	56.4	28.4	9.8	14.7	10.6	12.1	47.4
F7: 幼稚園分類②	国公立園	4297	47.0	27.8	9.5	15.7	14.8	11.3	48.2
	私立園	5018	51.6	31.8	12.4	20.9	14.2	30.6	52.0
F8: 地域	都市圏 (23区、指定都市、中核市)	3756	52.2	33.7	11.3	20.2	16.0	26.6	52.9
	都市圏以外	5557	47.6	27.4	10.9	17.3	13.5	18.4	48.4
F9: 規模 (在籍児数)	60名以下	3538	49.5	31.5	11.0	18.5	16.9	15.1	52.6
	61名～120名以下	3421	48.6	28.8	11.0	17.3	13.3	21.0	50.2
	121名～180名以下	1345	52.1	30.2	11.1	20.0	11.7	29.4	47.3
	181名～240名以下	598	46.7	25.8	10.7	18.1	12.2	33.4	44.6
	241名以上	413	51.8	32.2	12.8	24.5	16.0	42.1	47.2

		サンプル数	園児情報管 理(連絡先、 健康状況な ど)	保育時間管 理	出欠管理	遅刻・欠席 の連絡(メー ル、チャット ツール等)	園からの連 絡、予定の 通知	緊急管理
			活用してい る	活用してい る	活用してい る	活用してい る	活用してい る	活用してい る
全体		9315	47.5	40.3	56.1	54.1	77.0	40.3
F7: 幼稚園分類①	幼稚園	3869	42.7	23.6	43.6	44.3	73.4	35.8
	幼稚園型認定こども園	1053	50.2	45.5	60.6	61.2	80.1	42.6
	幼保連携型認定こども園	3882	50.4	52.3	65.1	60.7	79.7	43.0
	地方裁量型認定こども園	511	55.8	63.8	72.8	64.6	78.5	48.5
	保育所型認定こども園	511	55.8	63.8	72.8	64.6	78.5	48.5
F7: 幼稚園分類②	国公立園	4297	39.4	28.1	46.2	47.5	71.2	40.3
	私立園	5018	54.4	50.7	64.5	59.8	82.0	40.3
F8: 地域	都市圏 (23区、指定都市、中核市)	3756	51.7	42.1	59.1	59.6	80.4	45.6
	都市圏以外	5557	44.7	39.0	54.0	50.4	74.7	36.7
F9: 規模 (在籍児数)	60名以下	3538	41.3	31.4	45.5	42.3	71.2	37.9
	61名～120名以下	3421	49.6	45.4	59.6	57.5	79.2	42.9
	121名～180名以下	1345	52.6	46.7	67.3	66.3	82.7	40.4
	181名～240名以下	598	52.5	44.1	66.2	67.6	81.1	39.8
	241名以上	413	59.6	46.7	65.9	68.3	84.5	39.5

2.3 インタビュー調査

2.3.1. インタビュー調査の概要

(1)調査目的

先述のアンケート調査結果において、勤務環境改善の取り組みについて具体的な内容を記述する欄を設けた。そこでインタビュー調査に協力可能であると回答した園で、かつ園の形態に関係なく取り組むことが可能な取り組みを実施する園にインタビュー調査を実施し、幼児教育の「職」の魅力向上のため、園務改善に資する効率的・効果的な方策を幼稚園等で実施している園務改善の取り組み事例とあわせて取りまとめたパンフレットを作成する。

(2)調査対象

本調査は、アンケート調査に回答のあった園の教職員及び有識者からの推薦があった園のうち、後述する事務局での選定フローを踏まえて決まった園の職員に対して実施した。

(3)調査方法

本調査は、インタビュー対象者と事務局及びライターが立ち会いのもと、2023年12月6日～21日にかけてオンラインにて、11園に対してインタビューを約1時間かけて実施した。

2.3.2 インタビュー調査実施までの選定フロー

図3-1に示すフローに沿って11園に対してインタビューを実施した。アンケート調査の総回答サンプルは9315サンプルあり、まず表2-1における園の業務負担軽減と園のソフト面における職場環境整備について自由記述にて回答いただいたQ8-2、Q9、Q10-2、Q11、Q13の回答結果の中から、インタビュー調査に協力いただける園を抽出した。そのうち、幼児教育の「職」の魅力向上のため、園務改善に資する効率的・効果的な方策を幼稚園等で実施している園務改善の取り組み事例をQ8_2から13事例、Q9から15事例、Q10_2から4事例、Q11から8事例、Q13から23事例の計52事例をインタビュー候補として抽出した。52サンプルのうち、園の所在する地域・規模・取り組み内容に偏りが無いように事務局にて20サンプルを選定し、加えて有識者に推薦いただいた3園を加えた23園をインタビュー候補として選定した。その後、アンケートに回答いただいた記載内容の詳細を把握するため、対象の23園に対して架電を行いヒアリングを実施した。ヒアリングでは、取り組み内容の確認に加え、インタビュー調査及びパンフレット掲載の許諾、他の園においても導入（横展開）可能な取り組みを実施しているかを確認した。

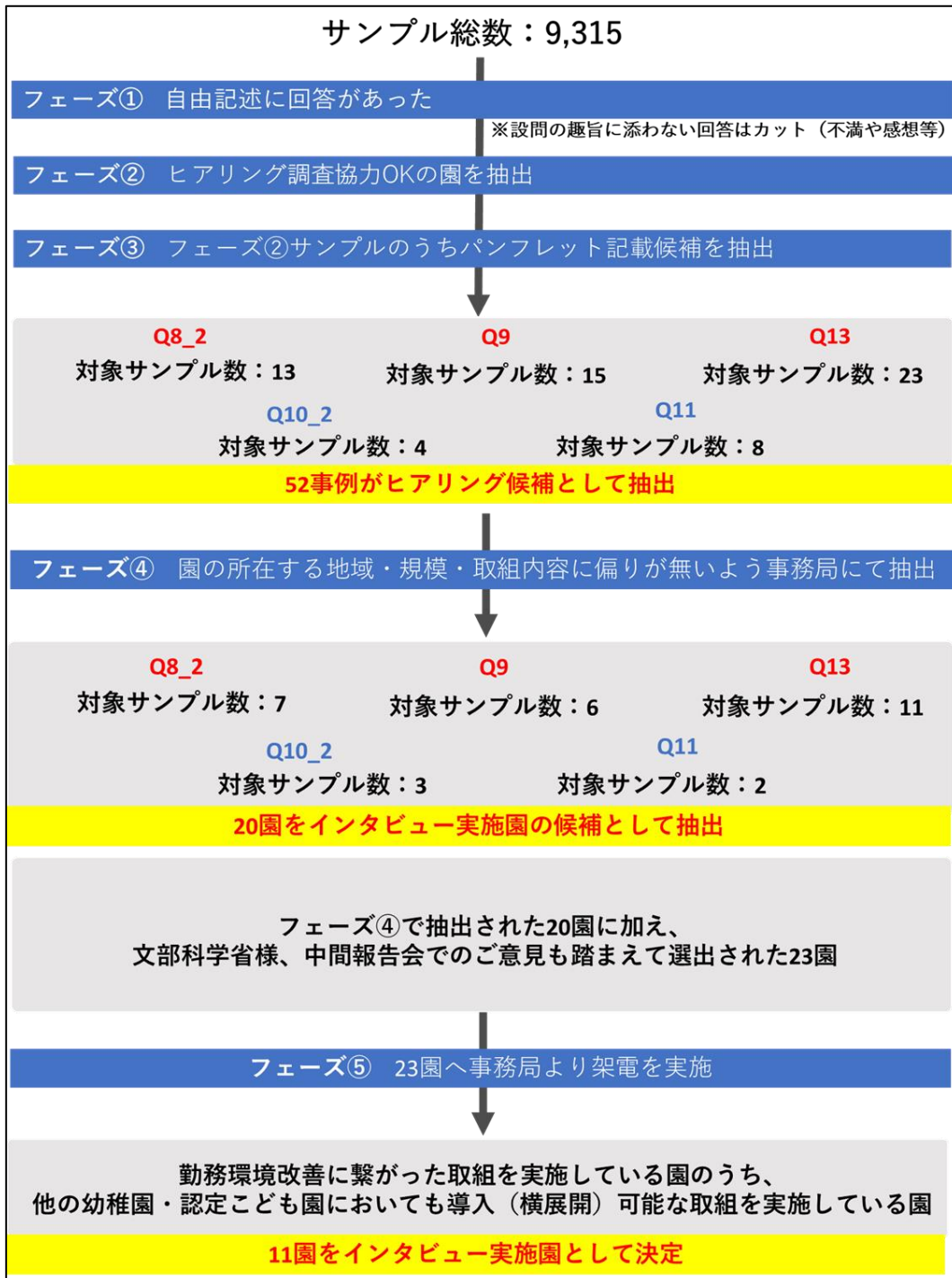


図 3-1 インタビュー実施園抽出フロー

2.3.3 インタビュー調査の実施

図 3-1 のフローを踏まえ、選定された園の基礎情報一覧を表 3-1 に示す。11 園に 2023 年の 12 月 6 日～26 日にかけてオンラインにて約 1 時間インタビューを実施した。インタビューの主な内容としては、以下の 6 点を中心に深掘りを行った。

- 園務環境改善の取り組み事例の詳細
- 園の抱えていた課題、取り組みを行った背景・きっかけについて
- 取り組みを行う際に工夫した点
- 取り組みを行う際に苦労した点や注意点
- 取り組みに対する園の先生や職員の反応
- 取り組みに対する園児、保護者の反応

表 3-1 インタビュー園の基礎情報

No	園名	園の種類	所在地	園の規模 (3歳以上の 児童数)
1	奈良女子大学附属幼稚園	【国公立】幼稚園	奈良県奈良市	大規模
2	山本幼稚園	【国公立】幼稚園型認定こども園	香川県三豊市	中規模
3	なかつ幼稚園	【私立】幼保連携型認定こども園	神奈川県愛甲郡	大規模
4	さいび園	【私立】幼保連携型認定こども園	石川県金沢市	小規模
5	西須磨幼稚園	【私立】幼保連携型認定こども園	兵庫県神戸市	大規模
6	彩つばさこども園	【私立】幼保連携型認定こども園	大阪府吹田市	中規模
7	花園第二こども園	【私立】幼保連携型認定こども園	埼玉県深谷市	中規模
8	はまようちえん	【私立】幼保連携型認定こども園	兵庫県尼崎市	大規模
9	なかいず認定こども園	【私立】幼保連携型認定こども園	静岡県伊豆市	中規模
10	認定こども園友愛幼稚園	【私立】幼保連携型認定こども園	栃木県足利市	小規模
11	認定向山こども園	【私立】幼保連携型認定こども園	宮城県仙台市	大規模

インタビューを実施した各園の取り組み概要を表 3-2 に示す。

表 3-2 インタビュー園の取り組み概要

園名	取り組み概要
奈良女子大学附属幼稚園	園内研修を外部向けにも実施し、小中学校の先生や園の保護者、公立園の先生、市役所の職員等異業種・異校種の方を招いている。 <u>外部の方とコミュニケーション</u> をとり、意見交換を行うことで新しい気付きや発見を得ることが多く、それらを園の業務改善に繋げるという取り組みをしている。
三豊市立山本幼稚園	<u>担任を 2 人体制</u> とし、午前と午後で保育の担当を交代し

	<p>ている。休暇により担任が1人になってしまう場合はフリー職員が補えるような体制を構築し、ノンコンタクトタイムや休憩時間の確保をしている。</p> <p>また<u>事務員や養護教諭を雇用し、保育者の業務負担軽減を図っている。</u></p>
なかつ幼稚園	<p><u>他園と合同でのビデオ研修会を定期的実施している。</u></p> <p>また研修を通して、課題や改善案の意見交換を実施し、保育の質の向上を図っている。</p> <p><u>月に一度希望者に対してピアノのレッスンを勤務時間内で実施している。レッスンを受講する職員の業務は他の職員で分担してまかなっている。</u></p>
幼保連携型認定こども園さいび園	<p><u>保育資格を持たずとも実施可能な業務と、保育資格が必要となる業務をすみ分けて、それぞれの業務ができる非常勤職員を雇用。</u></p> <p><u>非常勤職員の勤務時間やその時間における業務を適切に配分し、担任をもつ職員の業務を効率化した。</u></p> <p>以上2点の取り組みにより、毎日休憩1時間とノンコンタクトタイム1時間の確保ができています。</p>
西須磨幼稚園	<p><u>業務効率化ツールを導入することで1日の園全体の予定や職員それぞれのシフト・業務内容等を記載。個々人の仕事を可視化することにより、働きやすさや業務の適切な振り分け等に繋がり、職員のマネジメントが容易になった。</u></p> <p>取り組みを継続した結果、業務がスマート化し定時に帰宅できるようになった。</p>
彩つばさこども園	<p>3日先までの職員の業務を可視化し、人手が必要になったときに適切に人員配置できるよう工夫している。</p> <p>ICTを活用し過去に制作した月案や行事の企画書をさかのぼり、流用できる部分は活用しながら変更が必要な部分だけ修正している。</p> <p>児童の姿を保護者にもれなく伝えたいという思いで日々作成していた連絡帳により時間的な負担が大きくなっていった。園として<u>文章量を減らす方針で統一した。</u></p>
花園第二こども園	<p>他園の取り組みを参考に、<u>全職員がインカムを携帯し、コミュニケーションの円滑化を図る取り組みを実施。</u>園舎がとても広く職員間の連携に不便を感じていたが、インカム導入後は連携が円滑になり、また一人の職員が気をかけておかねばならない範囲が狭くなり、保育の質向上にも繋がっている。</p>
はまようちえん	<p><u>2年かけて勤務環境改善を目的に働き方改革プロジェクトを実施。</u>教頭がリーダーとなり、現場のスタッフから自主的に本プロジェクトの協力者を募った。園内ミーティングの整理や、有給休暇の申請システムの構築、オンラインコミュニケーションツールで発信する情報の整理等、<u>新システムの構築や業務の負担軽減・整理・アップグレードを実施した。</u></p> <p>その結果、成果として職員の残業時間をほぼ0にした。</p>

	<p>また、データベースを自園で作成し、園児と職員の記録・行事の振り返り等を一括で管理。データを一元化することで業務の効率化に繋がっている。その他各種オンラインコミュニケーションサービスも活用し業務負担軽減や職員間の相互理解にも寄与している。</p>
なかいず認定こども園	<p>職員を「仲間づくり部」「行事企画部」「研修部」の3部に振り分けて、園務をそれぞれの部の担当制にシフト。部として園務を行うため、個人当たりの業務負担が減少し、職員間のチームワーク強化にも繋がっている。</p>
認定こども園友愛幼稚園	<p>ソフトの面では様々な業務効率化サービスを活用し、事務作業にかかっていた負担を軽減。会議に関してはオンラインツールで事足りる部分は対面の会議は実施せず、会議の回数を必要最低限までに減らした。 ハードの面では補助金を活用しつつ、ソフト面におけるサービスを利用できる環境を構築。ランニングコストが低く費用対効果がよい。 業務の見直しをする際には法令に則し、県に相談しつつ、明確な根拠をもとに業務量を削減。</p>
認定向山こども園	<p>バスと園の情報伝達手段として利用していたインカムの利用用途拡大を検討した結果、担任のみならず全保育者がインカムを装着し保育にあたるようになった。 日々の保育者同士の連携のみならず、緊急事態にインカムが活躍するよう、災害訓練時にもインカムを使いながら訓練にあたっている。</p>

2.3.4 パンフレット化

インタビューを踏まえ、パンフレットを「はじめに」、「目次」、「事例紹介」、「おわりに」という構成で作成した。また、パンフレット作成にあたり読者が読みやすくなるための工夫として、インタビュー実施園を取り組み別に4つの類型化およびタグ付けを行った。取り組み内容の類型から更に具体的な情報をタグとして掲載することで、読者が読みたい要素が含まれている取り組みを容易に認識しやすくなり、パンフレットを読む際の利便性向上を狙う。4つの類型とタグは図3-3に示す通り。

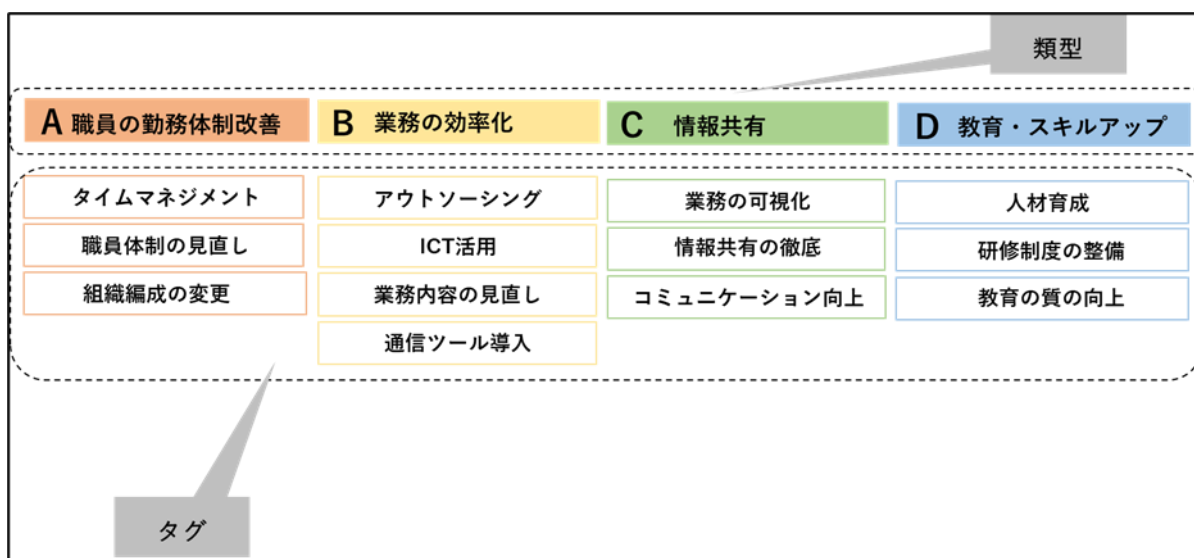


図3-3 パンフレットにおける取り組みの類型とタグ

作成したパンフレットは本事業の成果報告書の別添資料を参照。文部科学省のサイトを通じて公開された。

2.4 第2章のまとめ

本事業では、幼児教育の「職」の魅力向上のため、幼稚園教諭等が教育活動に集中できるための勤務実態アンケート調査並びにインタビュー調査を実施し、幼稚園等の勤務環境の実態を明らかにした。また全国の幼稚園等に横展開可能な園務改善に資する効率的・効果的な取り組みを明らかにし、その取り組みを取りまとめ、現場の教職員にとってわかりやすく、自身の働く幼稚園等で容易に取り組みを実践できるような体系化されたパンフレットを作成した。

調査結果から、年齢や所属園の属性、個々人の園での役割等にかかわらず、ほぼすべての教員が教育活動にやりがいを感じ、また重要であると認識していることがわかった。このことから、幼稚園で働く「職」の魅力はやはり子供と向き合って子供の学び、成長を支えることであると考えられる。

他方で、年齢や園での役割によって、時間的あるいは精神的に各業務に負担感を感じているかは差が見られる結果となった。このことから、自分の園がどのような属性か、あるいは園に勤務する職員の属性や役割によって何を負担と感じているかを把握した上で、必要な対応を行うことが求められる。

なお、Q1～Q4のクロス集計結果に着目すると、年齢や国公園・私立園でのやりがいがあると回答した層と、時間的および精神的負担感があると回答した層は並列な関係にあることが確認された。すなわち、やりがいを感じられないと業務を負担に感じるようになる、あるいは教職員が時間的・精神的に負担感を感じるほど、業務にやりがいを感じられなくなるということが言える。このことから、各園において業務の負担軽減の取り組みを進めることで、教職員がやりがいを感じ、生き生きと働ける職場になると考えられる。

更に調査結果からは職員の業務負担に対応するために、多くの園において既に業務の負担軽減や勤務環境改善に取り組み始めていることも明らかになった。Q8クロス集計結果からは、勤務のシフト制や休憩時間を取りやすくする工夫を進めるといった取り組みは、その取り組みを導入している園に所属する者の勤務時間との間に相関関係が見られたが、ICTの活用をはじめとするICT関連方策においては、必ずしも勤務時間と取り組みの実施との間に相関関係がないことも見られた。このことから、ICTに関しては単に導入するというのではなく、どのような場面においてどのような方法で活用するか、園でのニーズも踏まえて実践するという観点が重要となることが示唆される。

調査結果やパンフレットで示した事例も参照しつつ、園の属性や取り巻く環境、働く職員が抱える課題に沿って、各園における勤務環境改善の実践が進むことが期待される。